



終わりの時代のための
メッセージ

祈祷週 2024年12月6日-15日

The Reformation Herald
Volume 65, Number 4

目次

編集記 3

終わりの時代のためのメッセージ

特別な神のメッセージ..... 4

キリストの来臨のために活発に準備し、この希望を熱烈に抱くことによって、メッセージがわたしたちのうちに生きることができる！

だから、熱心になって悔い改めなさい 10

熱心な悔い改めとは、聖にして義なる神のみ前に、わたしたちの存在の核心に至るまで深く悔い改めることである

改心 15

改心とは、神の愛の力によってわたしたちの心に変化することである

罪の除去..... 21

罪は許されるだけでなく、取り除かれる必要がある！

慰めの時 25

後の雨は精練された民の上に豊かに注がれる

イエス・キリストの来臨の時..... 34

わたしたちには、祝福された希望のために準備する—またそれを早める—特権がある！

栄光の王国..... 39

今こそ、わたしたちが熱い期待をもって天の大能者に焦点を当てる機会である

詩..... 44

広めるメッセージ

セブンスデー・アドベンチスト改革運動の公式教会出版物
世界で最も欠乏しているものは人物である。それは、売
買されない人— (教育54)
編集者：L. トッドロイウ
編集アシスタントB.: モントローズ
デザイン：E. リー

Web: <http://www.sdarm.org>; E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.com

Vol. 65, No. 4; Copyright © 2024 年10月-12月
Illustrations: Adobe Stock on the front cover and pp. 3-5, 8,
9, 12, 13, 16, 17, 20, 21, 24, 25, 28, 29, 32.

序文

力を求めて祈る

世の中にはたくさんの情報があふれています。その多くは不正確ですが、一部は真実です。しかし、真実の範囲内であっても、わたしたちが最も真剣に注意を払うべきものは何でしょうか。わたしたちは何について考えるべきでしょうか。わたしたちの創造主は、この終わりの日にわたしたちが知って共有すべき明確なメッセージを持っておられます。そして、この毎年恒例の祈祷週は、わたしたちが一緒にこのことに集中する絶好の機会です。この一年、主はわたしたちを非常に祝福してくださいました。わたしたちは今も、このイベントに参加する貴重な機会を得て生きています。

「貴重な真理の宝石は表面の下側にあり、探究する時間はみな十分に報われるだろう。キリストの福音の原則を心に蓄え、神の言葉の隠された富を、労を惜しまず探しなさい。全天は、人間がエホバの教えと約束をどう扱うかを見守っている。」(ビュー・アフト・ハラルド 1889年12月3日)
「神の言葉の中には尊い真理が多く含まれている。しかし、群れが今必要としているのは『現代の真理』である。」(初代文集137)

「終わりの時代のためのメッセージ」という主題の読み物を読んでいくとき、わたしたちの信仰は豊かに報われるでしょう。これらの朗読から得られる大きな祝福を、遠隔地に一人である人や家から出られない人たちにも分かち合い、また次の日を覚えていきましょう。

断食を伴う祈り： 12月14日（安息日）、
ミッションへの提供： 12月15日（日）

この祈祷週のあいだに、このメッセージに従って生き、後の雨の力で聖霊を受けることを熱心に求めているすべての人々の心からの願いに、主が恵み深く応えてくださいますように！

編集記

終わりの時代のためのメッセージ

次の場面を思い浮かべていただきたい。聖霊は初代教会の上に、前の雨の豊かな力によって注がれました。ペテロとヨハネは宮の門にいて、そこでペテロはナザレのイエス・キリストの名において、生まれつき足の不自由な男に立ち上がって歩くように命じました。彼が男の手を取ると、男は歩き始め、跳びはね、神を賛美しました。

もちろん、この奇跡的な出来事は人々の間で騒動を引き起こします。なぜなら、彼らは、この人が座って施しを乞うていた人だと知っていたからです。ここでペテロは、アブラハム、イサク、ヤコブの神にすべての栄光を歸し、聖者、命の君について彼らに説明します。彼は、足の不自由な人がイエスの名によって、イエスを強く信じるようになったことを明らかにし、それからペテロは、彼らがローマ当局の前で主を否定し、神の油注がれた者よりも殺人者（バラバ）を選んだという現実を大胆に宣言します。そして、彼は、彼らが無知のためにこの罪を犯したと述べ、さらには、キリストの苦しみは預言の成就であったことを明らかにします。

しかし、彼らは今、この点について何をすべきでしょうか？ 次の言葉が響き渡ります：

「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ち返りなさい。それは、主のみ前から慰めの時がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである。このイエスは、神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時まで、天にとどめておかねばならなかった。」（使徒行伝3:19-21）

なぜこれが終わりの時代のためのメッセージなのか？

文脈から判断すると、この宣言は明らかにキリストの昇天直後になされたものです。しかしキリスト教徒にはその時から先におこる出来事の時系列があります。

1. 悔い改めなさい—今
2. 改心しなさい—今
3. あなたの罪（あなたの名前ではなく）がぬぐい去られるように。
4. いつか？
キリストの再臨前の調査審判の時、慰めの時、すなわち後の雨の力を持つ聖霊が限りなく注がれる時である。
5. その後、天はイエス・キリストを遣わす。なぜもっと早くならないのだろうか。イエスは、イエスの道徳律のあらゆる原則が人々の心に回復されるまで、つまり、イエスを心から完全に受け入れてイエスの意志に従う人々の心に回復されるまで、天の宮廷に留まるのである。

「変貌の際、イエスは父によって栄化された。わたしたちはイエスがこう言うのを聞く。『「今や人の子は栄光を受けた。神もまた彼によって栄光をお受けになった。』このように、イエスは裏切られ十字架にかけられる前に、最後の恐ろしい苦しみに備えて強められた。キリストの体の肢体が最後の闘争の時期、つまり『ヤコブの苦難の時』に近づくにつれ、彼らはキリストへと成長し、彼の霊を大いに受けるだろう。第三のメッセージが大いなる叫びにまで高まり、最後の働きに大いなる力と栄光が伴うにつれ、神の忠実な民はその栄光にあずかるだろう。苦難の時を乗り切るために彼らをよみがえらせ、強めるのは後の雨である。彼らの顔は第三天使に伴う光の栄光で輝くだろう。」¹

今は、イエスが来られるべき時でしょう。はい、確かにそうです！ わたしたちはどのように準備できるでしょうか。使徒行伝3:19-21に書かれている過程は明白です。この祈禱週のあいだに終わりの日のメッセージを深く没入し、勤勉に心に当てはめていきましょう！

引用：

- 1 教会への証1巻353

特別な神のメッセージ

エレン・G・ホワイトの著作から編集



キリストの来臨のための準備

親愛なる兄弟姉妹がた、われわれは、キリストが間もなく来られることと、われわれは、罪の世界に伝えるべき最後のあわれみの使命を持っていることを、心から信じているだろうか。われわれの模範は、正しいものであろうか。われわれは、自分たちの生活と聖い行状によって、われわれの卑しいからだをご自身の栄光のからだと同じかたちに変えてくださるわれわれの主、救い主イエス・キリストの輝かしい出現を待ち望んでいることを、周囲の人々に示しているだろうか。われわれは、これらのことを十分に信じ、理解してはいないのではないかと思う。われわれが宣言している重大な真理を信じる者は、その信仰を実行しなければならない。娯楽やこの世に心を向けさせる物の追求が多すぎる。心は、衣服のことに奪われ過ぎ、舌は、軽率でつまらぬ話をしすぎて、われわれの公言が偽りであることを示している。天使たちは、われわれを守り保護している。われわれは、たびたびつまらぬ会話をしたり、むだ話や冗談を言ったり、また、不注意で愚かな状態に陥

ったりして、天使たちを悲しませることがある。時には、勝利を得ようと努力して、勝利することもあるが、もしもわれわれがそれを持続させずに、同じような不注意で無関心な状態に陥って、誘惑に耐えられず、敵に抵抗することができないならば、われわれは、黄金よりも尊い信仰の試練に耐えることができない。われわれは、キリストのために苦しんでおらず、患難をも喜んでいないのである。クリスチャンの勇気と原則に従って神に仕えることが、大いに欠けている。われわれは、自分を喜ばせ満足させることを求めないで、神に栄誉と栄光を帰し、われわれのなすこと言うことがすべて、ただ神の栄光のためでなければならない。もしわれわれの心が、次の重要な言葉に深い感動をおぼえ、常にそれを心に留めているならば、われわれは、そうたやすく誘惑に陥ることはなく、われわれの言葉は、少なく、よく選ばれたものとなるであろう。「彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめを受けて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ」「人はその語る

無益な言葉に対して、言い開きをしなければならないであろう。「あなたは…わたしを見ていられる」。われわれは、こうした重要な言葉を思い、あわれなわれわれ罪人が、ゆるされてイエスの尊い血によって神に贖われるために、イエスが苦しまれたことを思いおこすときに、われわれは、神に強く心を動かされて、われわれのためにこのように苦しみを耐え忍ばれたかたのために苦しむことを、熱心に願い求めずにはおられなくなる。もしわれわれが、このようなことを常に心に留めているならば、自己は、その誇りとともに低められて、その代わりに、他人の譴責にも耐えて、軽々しくいきどおらない、幼児のような単純さが与えられる。わがままな精神は、心を支配しなくなる。¹

機会を大切に

われわれを正しい状態にするために、われわれのためにどれだけのことがなされたかを、わたしが自覚するときに、わたしは、ああ、神のみ子は、われわれ哀れな罪人のために何という愛、何と驚くべき愛をもたれたのだろうかと呼びざるを得ない。われわれの救いのために、できる限りのことがなされているときに、われわれは、何も感じず、無関心であってよいだろうか。全天は、われわれに関心を持っている。われわれは目をさまし、高くあげられたおかたに、栄誉と栄光を帰して、あがめなければならない。われわれの心は、われわれにこのように豊かな愛とあわれみを示された神に対して、愛と感謝にあふれなければならない。われわれは、自分たちの生活によって、神をあがめ、われわれの清く聖なる行状によって、われわれが上から生まれたものであることを示し、この世は、われわれの故郷ではなくて、われわれは、ここではよりよい国にむかって旅をしている旅人であり寄留者であることを、示さなけ

なければならない。

キリストの名を唱え、彼が速やかに来られることを待望していると主張する人々の多くは、キリストのために苦しむことが何であるかを知らない。彼らの心は、恵みによって和らげられず、自己に死んでいないことが、しばしば、いろいろな点であられる。それと同時に、彼らは、試練に会っていると述べている。しかし、彼らの試練の主な原因は、和らげられていない心であって、それが利己心を敏感にし、しばしば傷つくのである。もしこのような人々が、キリストの謙遜な弟子、真のキリスト者になることが何であるかを自覚したならば、熱心に働き始め、正しい出発をすることだろう。彼らは、まず、自己に死んで、常に祈り、心のすべての欲情を制するであろう。兄弟がた、自信と自己満足を捨てて、柔和な模範のおかたに従っていただきたい。イエスを常に心に宿して、彼をあなたの模範とし、彼の足跡に従っていかなければならない。信仰の導き手であり、またその完成者であられるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもちとわなないで十字架を忍ばれた。彼は、罪人らの反抗を耐え忍ばれた。彼は、われわれの罪のために、傷つき、裂かれ、打たれ、苦しめられ、ひとたびほふられた柔和な小羊であった。²

特権以下の生活

わたしたちは、神がわたしたちになってほしいと望んでおられる民の状態から程遠い。なぜなら、おどろくほど明らかにされた神の真理と目的に調和して、魂を高め、品性を精練していないからである。「正義は国を高くし、罪は民をはずかしめる。」(箴言 14:34) 罪は混乱を引き起こすものである。個人の心、家庭、教会など、罪が大切にされているところはどこでも、無秩序、争い、不和、敵意、妬

み、嫉妬が生じる。なぜなら、人と神の敵が心を支配する力を持っているからである。しかし、真理を擁護すると同様に、それを愛し、生活に取り入れるなら、その人は罪を憎み、世界に対してイエス・キリストの生きた代表者となるだろう。

真理を信じると主張する人々が非難されるのは、彼らが光を持っていなかったからではなく、彼らが偉大な光を持っていたにもかかわらず、神の偉大な道徳的正義の基準のテストに心を向けなかったからである。真理を信じると主張する人々は、それを実践することによって高められなければならない。真の聖書の宗教は、命を生じ、品性を洗練し、高貴にし、ますます神の型に似たものにならなければならない。そうすれば、家庭は神への感謝と賛美の祈りで声高らかに語る。天使は家庭で奉仕し、礼拝者を祈りの家に連れて行く。

真理を信じていると主張し、神の律法を擁護している教会は、その律法を守り、すべての悪から離れなければならない。個々の教会員は、悪を実践し、罪にふける誘惑に抵抗すべきである。教会は、悔い改め、謙遜、心の深い探求によって、神のみ前に精練のはたらきを開始すべきである。なぜなら、わたしたちは、贖罪の日の本体—永遠の結果を伴う厳粛な時—にいるからである。

真理を教える人たちは、イエスにある真理をそのまま示すべきである。神の真理の従わせ、聖化し、精錬する影響のもとで、彼らは清い器となる。彼らに聖書の宗教というパン種をもってふくらむなら、彼らから世界になんという影響が及ぶことだろう。個々の教会員が純粋で、揺るぎなく、動かされず、いつもイエスの愛に満ちているようにする必要がある。そうすれば、彼らは世の光となるだろう。群れの見張り人また羊飼いと立っている人たちは、厳粛な真理を宣言し、あらゆる人々、国民、国語に警告の音を響かせるべきである。彼らが、自分た

ちが擁護する真理の生きた代表者となり、その要求への厳格かつ聖なる遵守によって神の律法を尊び、純粋で聖なる状態で主の前に歩む必要がある。そうすれば、真理の宣言には力が伴い、どこにでも光を反射するだろう。

神の霊を悲しませること

神は、人々が神を見捨てるまで、決して民や個人を見捨てない。神の戒めを守っている神の民の信仰を、外部からの反対が弱めることはない。純粋さと真理を実践することを怠ると、神が祝福なされるために彼らの中におられないので、神の御霊を悲しませ、彼らを弱める。内部の腐敗は、エルサレムで起こったように、この民に神の非難をもたらす。ああ、他の人に説教する人々が自分自身捨てられることがないようにと、嘆願の声、熱心な祈りが聞こえるように。兄弟たちよ、わたしたちは自分たちの前に何があるのかわからない。わたしたちの唯一の安全は、世の光に従うことである。いにしえの世界、ソドムとゴモラ、古代エルサレムに神の怒りをもたらした罪がわたしたちの罪とならなければ、神はわたしたちと共に、わたしたちのために働いてくださる。

神の律法に対するほんのわずかな違反でも、違反者は罪をもたらす、真剣に悔い改めて罪を捨てなければ、その人はたしかに背教者となる。…わたしたち国民は、できる限り、道徳的汚れと罪を悪化させるものから浄化されるべきである。正義の道徳基準を高めていると主張する人々に罪が迫っているとき、どうして神がその力をわたしたちのために向け、義を行った民としてわたしたちを救ってくれると期待できるだろうか。 . . .わたしたちが信仰を保たず、神の戒めを筆と声で主張するだけでなく、それをすべて守り、一つの戒めも故意に破らないのでなければ、弱さと破滅がわたしたちに降りかかる

だろう。それは、わたしたちのそれぞれの教会において、わたしたちが取り組まなければならない事柄である。すべての人がクリスチャンでなければならない。

罪を捨て去る

誇りという罪を捨て、余分な服装をすべて克服し、伝道地における神の働きを支えるために使われるべきお金を差し控えた、神に対する横暴な強奪行為を悔い改めなければならない。改革、真の改心の働きを人々の前に示し、人々に促すべきである。わたしたちの働き、ふるまいをこの時代の働きと一致させ、「わたしがキリストに従うように、あなたもわたしに従いなさい」と言えるようにすべきである。へりくだり、断食、祈り、罪の悔い改め、罪の放棄によって、神の前にわたしたちの魂をへりくだらせよう。

真の見張り人の声が今、至る所で聞かれる必要がある。「朝がきます、夜もまたきます。」（イザヤ21:12）。ラッパは確かな音を発ししなければならない。わたしたちは主の準備の大いなる日にいるからである...わたしたちの世界には多くの教義が流布している。何千、何万と数えられる多くの宗教が流布しているが、神の銘と印があるのは一つだけである。人間の宗教と神の宗教がある。わたしたちは永遠の岩に魂を固定しなければならない。神の世界におけるすべての物、人々や教義、自然そのものは、神の確かな預言の言葉を成就し、この世界の歴史における神の偉大な最後の働きを成し遂げている。

わたしたちは神の命令を待っていないなければならない。国家は中心から揺さぶられるだろう。神の唯一の正義の基準、品性の唯一の確実な基準を宣言する人々に対する支援は撤回されるだろう。そして、不法の者によって制定された安息日を高め

、神の聖日を無視するための国会の法令に頭を垂れず、国の法律に従わない人々はみな、カトリック教の抑圧的な力だけでなく、獣の像であるプロテスタント世界の抑圧的な力を感じるだろう。

サタンは奇跡を起こして人を欺くために奇跡を行うであろう。彼は、自分の力を最高のものとして打ち立てるであろう。教会は今にも倒れそうに見えるが、倒れることはない。教会は残り、シオンの罪人たちはふるい出される。貴重な麦からもみ殻が分けられるのである。これは恐ろしい試練であるが、それでも必ず起こらなければならない。小羊の血と自分たちのあかしの言葉によって勝利を収めてきた者だけが、罪の汚れやしみがなく、口に偽りのない、忠実で真実な者たちと共にいるだろう。わたしたちは自分の義を捨て、キリストの正義に身を包まなければならない。³

神の民が自分の側で努力することなく、神の慰めの時が自分たちにおとずれて、自分たちの悪を取り除き、過ちを正すことを待っているなら、もし彼らが肉と霊の汚れから自分たちを清め、第三の天使の大いなる叫びにたざざるのにふさわしい者としてくれるために慰めの時をあてにしているなら、彼らは足りないことが見いだされることをわたしは示された。慰めの時、すなわち神の力は、神が命じる働きをすることによって、すなわち、肉と霊のいっさいの汚れから自分たちを清め、神を畏れて聖潔を完成させることによって、そのために自らを備えてきた人々にのみもたらされる。⁴

キリストの義に身を包む

真理に従うことによって魂を清める残りの民は、試練の過程で力を集め、周囲の背教の中で神聖さの美しさを示す。これらすべてについて、神は次のように述べている。「見よ、わたしは、たなごころにあなたを彫り刻んだ」（イザヤ49:16）。それらは

永遠不滅の記憶の中に保持される。わたしたちは今、信仰を、生きた信仰を求めている。わたしたちは罪人の心に切り込む生きた証を持ちたいと思っている。説教が多すぎて奉仕が少なすぎる。わたしたちは神聖な熱心さに欠乏している。わたしたちには真理に対する精神と熱意が必要である。牧師の多くは、自らの品性上の欠点によって半ば麻痺している。彼らには神の改心の力が必要である。

アダムが墮落する前に神が彼に要求されたのは、神の律法に対する完全な服従であった。神がアダムに要求した完全な服従、神の御目に欠点や欠陥のない義を神は今、求めておられる。神の律法が要求するすべてを神に捧げることができるよう、神がわたしたちを助けてくださるよう。キリストの義を日々の実践に持ち込む信仰がなければ、わたしたちはこれを行うことはできない。

親愛なる兄弟たちよ、主が来られる。思いと頭を上げて喜びなさい。ああ、わたしたちは、この喜ばしい知らせを聞き、イエスを愛していると主張する人々が、言葉にできないほどの喜びと栄光に満たされるだろうと思う。これは、すべての魂を感動させる良い、喜ばしい知らせであり、わたしたちの家庭で繰り返し伝えられ、道で出会う人々に伝えられるべきものである。これ以上に喜ばしい知らせが伝えられるだろうか。信者や不信者との口論や論争は、神がわたしたちにお与えになった仕事ではない。

もしキリストがわたしの救い主であり、わたしの犠牲であり、わたしの贖罪であるなら、わたしは決して滅びない。このお方を信じることで、わたしは永遠の命を得る。ああ、真理を信じるすべての人が、イエスを自分の救い主として信じるように。わたしが言っているのは、行いによって支えられていない安っぽい信仰ではなく、神の子の肉を食べ、血を飲

む、真剣で、生き生きとした、不変の信仰である。わたしは神の聖なる律法に対する違反をゆるされるだけでなく、神の顔の太陽の光の中に引き上げられたいのである。単に天国に入れてもらえるだけでなく、十分に入りたいのである。

救いはキリストとの結合である

特別な民、聖なる国民であるわたしたちは何故、神がわたしたちに示してくださった言い表せないほどの愛に無感覚なのだろうか。救いとは、バプテスマを受けることでも、教会の名簿に名前を載せることでも、真理を説くことでもない。救いとは、イエス・キリストとの生きた結合、心を新たにすること、信仰と愛による労働、およびキリストの業を忍耐、柔和、希望をもって行うことである。キリストと結合したすべての魂は、周囲のすべての人々にとって生きた宣教師となる。キリストは近くの人々や遠くにいる人々のために働く。キリストには分派的な考えはなく、ご自身が統括する仕事における一つの部門のみを築き上げることに関心はない。人々は、すべての部門を強くすることに関心を持って働くべきである。そこでは、自己愛や利己的な関心は存在しない。み事業は一つであり、真理は偉大な全体である。

真剣に、案じる心をもって次のように質問してみるとよい。「妬みを心にいだいていないか。嫉妬が心の中に居場所を見つけるのが許されていないだろうか」。もしそうなら、キリストはそこにおられない。「わたしは神の律法を愛しているだろうか。わたしの心にはイエス・キリストの愛があるだろうか。」キリストがわたしたちを愛してくださったように、わたしたちが互いを愛するなら、わたしたちは平和と安息の祝福された天国への準備を整えているのである。一番になろうとしたり、優位に立とうと争う必要はない。すべての人が隣人を自分と同じように愛する

のである。ああ、神がわたしたちの教会の理解力を開き、個々の会員を目覚めさせることによってわたしたちの教会の心に語りかけてくださるように。…シオンで安楽に暮らしている人々は、目覚める必要がある。真理を担いながらも、魂に対して重荷を感じない彼らの責任は重大である。ああ、真理を告白する男女が目覚め、キリストのくびきを負い、キリストの重荷を取りあげ、このお方の荷を負うように。名ばかりの関心ではなく、キリストのような関心、利己的でない関心、困難にも弱まることのない、あるいは不義がはびこっても冷めることのない強い情熱を持つ人々が求められている。……わたしたちは永遠の世界のまさに境界線上に立っている。この働きには、都合の良い時だけキリスト教徒になろうとする者は必要とされない。感傷的で趣味の良い宗教は、この時代には不要である。わたしたちの信仰と真理の宣言には、熱意がもたらされなければならない。わたしはあなたに言う、新しい命が、これまでわたしたちが認識したことのない力で、悪魔の機関から働き始めている。上からの新しい力が神の民をとらえないのであろうか。真理は感化力において聖化しながら、人々に強く訴え

られなければならない。神に熱烈な嘆願、神への苦悩の祈りが捧げられなければならない。そうすることで、わたしたちの民としての希望は、仮定ではなく、永遠の現実に基づくものとなるだろう。わたしたちは、神の言葉の証拠によって、信仰の中にいて天国に向かっているのか、そうでないのかを自分で知る必要がある。品性の道徳的基準は神の律法である。わたしたちはその要求を満たしているだろうか。主の民は、自分の財産、時間、才能、そしてすべての影響力をこの時代の働きに持ち込んでいるだろうか。起きようではないか。「このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられる。」(コロサイ3:1)³

引用：

1. 初代文集211、212
2. 同上214、215
3. レクテッド・メッセージ2巻377-380.
4. 教会への証1巻619
5. レクテッド・メッセージ2巻380-382

だから、熱心になって悔い改めなさい

ダニエル・リー著 U.S.A.

本物の悔い改めの性質

はっきりさせなければならない最初の疑問は、本物の悔い改めとは何かということです。第二に、安息日を含む神の戒めをすでに守り、道徳的行為に関するかぎり非の打ちどころのない生活を送っている人々は、一体何を悔い改めることができるのでしょうか。

神への信仰と、その実である罪に対する悔い改めは、神との交わりの自然な結果であり、自動的にもたらされます。神との積極的なつながりを通してのみ得られる神のいつくしみ深さと義の啓示こそが、人々を悔い改めへと導くのです（ローマ2:4）。この交わりの外では、本物の悔い改めはありません。魂が神と対話すればするほど、神をより深く知るようになり、罪の確信がより強くなり、悔い改めがより深く、より真剣なものとなります。

「イエスに近づけば近づくほど、そして、キリストのご品性の純潔さが更にはっきり認められるようになればなるほど、ますます罪のひどい罪深さを明らかに見るようになり、われわれ自身を高める気持ちはますます消えていく。魂は神を求めて絶えず手を伸ばし、罪の悲痛な告白を絶えず、まじめにささげて、神のみ前に心を謙虚にする。クリスチャン経験において一歩進むごとに、われわれの悔い改めは深まる。」¹

エノクについては、「彼は、神とのつながりが親密になればなるほど、自分の弱さと不完全さを深く感じた。」²といわれています。

悔い改めは人工的に作り出すことはできません。機械的に考案したり、気まぐれな人間の感情のように生み出すこともできません。それはただ聖霊が人の心の琴線に触れ、その罪を自覚させる強い力で心を溶か

し、征服することです。そのときに本物の悔い改めが生じます。罪に対する悲しみと悔い改めは、キリスト・イエスにおける神のご品性のすばらしさを心に絶えず印象づける聖霊の働きに対する人間の自然で自動的な反応です。信徒が絶えずイエスを仰ぎ見て、聖なる交わりの友としてイエスに心を開くとき、すべての自己義と想像上の善良さは剥ぎ取られ、魂の裸がさらけ出されます。すると、彼の魂は自然に悔悟の念に頭を垂れ、へりくだり、悔い改めるのです。

「神の栄光のただ一筋でも、あるいはキリストの純潔のただ一ひらめきでも、人の心に照りこむとき、心の汚れの一つ一つが痛々しいまでに、はっきりと見せられ、人の性質の欠点、欠陥があまるところなく示されるのである。それは汚れた欲望、不誠実、汚れたくちびるなどをはっきりと見せるのです。罪人の目には、神の律法を無視した不誠実な行いが、はっきりと見せられ、人の心を探る神のみたまに打たれ苦しめられる。そして、キリストの純潔無垢のご品性をながめて、自分を忌みきらうようになる。」³

イザヤの悔い改め —

神の終末時代の教会の模範

預言者イザヤが神殿で神の栄光を見たとき、彼は自分自身の道徳的弱さと性格の不完全さの感覚に打たれ、圧倒されました。預言者の絶望的な叫びは「わがわがわいなるかな、わたしは滅びるばかりだ。わたしは汚れたくちびるの者で、汚れたくちびるの民の中に住む者であるのに、わたしの目が万軍の主なる王を見たのだから」だった（イザヤ6:5）。彼が聖所で人生を変えるような神との個人的な出会いをする前は、他人の

罪を叱責しようと動かされていました。「悪しき者はわざわいだ、彼は災いをうける。その手のなした事が彼に報いられるからである。」(イザヤ3:11)。「わざわいなるかな、彼らは悪を呼んで善といい、善を呼んで悪といい、暗きを光とし、光を暗しとし、苦きを甘しとし、甘きを苦しとする。わざわいなるかな、彼らはおのれを見て、賢しとし、みずから顧みてさとしとする。わざわいなるかな、彼らはぶどう酒を飲むことの英雄であり、濃き酒をまぜ合わせることの勇士である」(イザヤ5:20-22)。

預言者は神への熱意から、周囲に蔓延する不義を非難する気持ちに動かされましたが、その霊的歩みの段階では必ずしも自分の罪深さを悟っていたわけはありませんでした。神殿で神と運命的に出会うまで、その預言者は、自分の思いと心に鮮明に刻み込まれた神の栄光と完全に対照的な自分自身の生活の罪深さを理解していませんでした。その忘れられない出会いの結果、「あなたは災いである」は「わたしは災いである…」に変わりました。

「イザヤは他人の罪を非難したが、今や自分が彼らに宣告したのと同じ非難にさらされているのを認める。彼は神への礼拝において冷たく生気のない儀式に満足していた。彼は主の幻を見るまでこのことを知らなかった。聖所の神聖さと威厳を目の当たりにした今、自分の知恵と才能はどれほど小さく見えたことだろう。彼は何と価値がなかったことだろう！神聖な奉仕に何とふさわしくなかったことか！彼の自信に対する見解は使徒パウロの言葉で表現できるだろう。『わたしは、なんというみじめな人間なのだろう。だれが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか。』⁴

今日の神の残りの教会は、神の最高の敬意の対象でありながら、神殿で神と個人的に出会う前の預言者イザヤと同じように、自分たちの真の霊的状态について盲目です。神聖な真理の保管者としてのその高い地位と、非難の余地のない態度は、残念ながら、自分たちが実際よりも良い立場にいると考えるという望ましくない影響を教会に生み出しました。彼女自

分自身の霊的な状態の評価は、次のように言われる忠実なまことの証人の評価とは大きくへだたりがあります。「あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない。」(黙示録3:17)。本当に自分自身の真の状態に気づいておらず、自信をもって次のように叫ぶのです。「自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もない」(黙示録3:17)。神の民が自分たちの考える善良さの大きさに騙されて、この勝利主義的で自画自賛的な態度に溺れている限り、聖霊は罪を自覚させることはできません。この有害な精神状態を断固として取り除き、放棄しない限り、本物の心だけた悔い改めや罪の告白、そして神との真の交わりはあり得ないのです。

イエスの時代の律法学者とパリサイ人は、自分たちが作り上げた自己義を誇りに思っていました。バプテスマのヨハネの「悔い改めよ、天国は近づいた」という呼びかけは(マタイ3:2)、彼らに何の印象も残しませんでした。彼らに対する悔い改めの呼びかけは不快でした。アブラハムとの近い関係と、彼らの多大な功績指向の改革、厳格な形式主義のおかげで高まった霊的優越感に目がくらんで、彼らは救い主の必要も、へりくだって自分の罪を告白する必要も、そしてもちろん悔い改めの必要も感じませんでした。イエスは当時のこれらの自己欺瞞的な宗教の公言者たちを、「…外側は美しく見えるが、内側は死人の骨や、あらゆる不潔なものでいっぱいである」と述べられました(マタイ23:27)。これらの人々は、外面的な規則や定めに合わせてること、心から自然にわきあがる義を混同していました。彼らは、キリストの学校でのみ得られ、キリストとの絶え間ない交わりを通してのみ学べる、柔和さと心の低さについて何も知りませんでした。

ラオデキヤ教会へのメッセージの中に見いだされる「だから、熱心になって悔い改めなさい」という召し(黙示録3:19)は、人気がないが、今日すべての教会員が非常に真剣に受け止めなければならないものです。わたしたちはラオデキヤの時代に生きています。したが

って、この悔い改めへの呼びかけは現在の義務です。この呼びかけに耳を傾けなければ、キリストの口から間違いなく吐き出されます。それは、完全な拒絶の行為です。預言者イザヤが神殿で神の栄光を見ながら経験したような、自己否定、自己放棄、自己屈服は、悔い改めへの呼びかけに耳を傾けた人々の生活の中に見られるようになります。イザヤのように信仰によって聖所で神に出会った人だけが、悔い改めに導く神の慈しみ深さについて幾分か知る特権が与えられるのです(ローマ人への手紙2:4)。

「イザヤに与えられた幻は、終わりの日の神の民の状態を表している。彼らには信仰によって、天の聖所で進められている働きを見る特権がある。『天にある神の聖所が開けて、聖所の中に契約の箱が見えた』。彼らが信仰によって至聖所の中を見て、天の聖所におけるキリストの働きを知るとき、自分たちが汚れた唇の民であることを知るようになる。つまり、その唇はしばしば空しいことを語り、そのタラントは聖化されておらず、神の栄光のために用いられていない民である。彼らが自分の弱さと無価値さを、キリストの栄光に満たたご品性の純粋さとうるわしさを比較し、絶望しても当然である。しかし、彼らがイザヤのように、主が心を与えようと意図された印象を受けるなら、彼らが神のみ前に魂をへりくだらせるなら、希望がある。約束の虹が御座の上にかかっており、イザヤのためになされた働きは彼らのうちになされるのである。神は悔い改めた心からの嘆願に答えてくださる。』⁵

贖罪の日、悔い改めの象徴

イザヤが神殿で見た神の幻は、終わりの日における神の民の経験の型です。信仰によって、彼らは至聖所でイエスに従う特権を得ます。彼らがイエスと交わり、聖所でイエスの最後の働きを熟考するにつれ、彼らは自分たちの罪を記憶と記録の書から永遠に消し去って下さるというイエスの偉大な愛を理解するようになる。彼らは、キリストの清らかさとは著しく対照的に、自分たちの心の汚れと品性の醜さの程度をより明確

に認識するようになります。その結果、彼らの悔い改めは大いに深まるのです。彼らは敷居と祭壇の間で嘆息し、叫び、泣きます。彼らは自分の魂を悩ませ、心の純潔さを真剣に嘆願します。

「すべての人々は、天の聖所で行われている贖罪の働きについて、もっと知的になる必要がある。この偉大な真理が認められ、理解されると、それをつかむ人々はキリストと調和して、神の偉大な日に立つために民を備えるよう働き、その努力は成功するようになる。研究、瞑想、祈りによって、神の民は、一般的な地上の考えや感情を超えて高められ、キリスト及び、キリストの働き、すなわち天の聖所を民の罪から清めるという偉大な働きと調和するように導かれる。彼らの信仰はキリストと共に聖所に入り、地上の礼拝者たちは**自分たちの生活を注意深く見直し**、自分たちの性格を偉大な義の基準と比較するようになる。**彼らは自分たちの欠点を認めるようになる。**」⁶

明らかにされ、悔い改められるべき人間の罪深さの全容

悔い改めた信者であっても、自分の人生がどれほど罪深いかを全く分かっていません。自分の犯した罪や違反の重大さを自分の頭脳で認識することができないのです。そのため、どんな日でも、悔い改めは決して十分深いものとはなりません。何を悔い改めたらよいか分からないのです！毎日悔い改め告白しているものより、神の律法に負っている負債の方がはるかに大きいことを悟りません。聖所の記録の書には、日々典型的に悔い改め告白している罪よりはるかに多くの罪が記されています。「すべての人の行為は、神の前で調査され、忠実であったか不忠実であったかが記録されている。天の書物の中の各自の名の向かい側には、恐るべき正確さで、すべての悪い言葉、利己的な行為、義務の怠慢、隠れた罪、巧妙な偽善行為などが記入されている。天からの警告や譴責をなおざりにしたこと、時間を浪費し、機会を活用しなかったこと、善きにつけ悪しきにつけ、及ぼした感化とその広範囲に

わたる結果などがみな、記録天使によって記録されている。』⁷

まだ実際に犯されていない罪でさえも、天の書物に記録され、裁きにおいて人々に不利な証言となるのです。

「神の律法は、外面的な行為だけでなく、感情や動機にも及ぶ。それは暗闇に埋もれていたものに閃光を当てて、心の秘密を明らかにする。神はすべての考え、すべての目的、すべての計画、すべての動機をご存知である。**天の書物には、機会があれば犯されていたであろう罪が記録されている。**神はすべての行いとすべての秘密を裁かれる。』⁸

理想的には、自分の罪深さがさらされ、明るみに出されればされるほど、悔い改めの働きは深まることです。残念ながら、改心にて生活に建設的な改革がもたらされると、自分の人生の罪深さに対する理解はひどくゆがめられ、ぼやけてしまうこともあります。食事、服装、気質、立ち居振る舞いに前向きな変化がもたらされると、多くの人々が（誤って）自分はますます義にかなった人間になり、したがってますます罪が減ったと考えるようになります。これこそ自己欺瞞そのものです。これは、「自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もない」と言うラオデキヤの行き詰まりの本質そのものです。言うまでもなく、この罠に陥るのは多くの人々が認識しているよりもはるかに容易です。実際、認識も認知もされていないかもしれませんが、これが教会の多くの人々の状態です。これこそ、ラオデキヤについてイエスが「あなたは知らないのか…」と叫ばれた理由です。

結局のところ、この態度は嘆かわしいものであり、悔い改めの度合いに大きく影響します。

最終的な贖罪と清めに先立つ深い悔い改めの働き

終わりの日において、神は、至聖所における神の最後の奉仕において、神の子と密接に結びつく民をお持

ちになります。彼らは絶望の境地に至るまで、自分たちの人生の罪深さの程度を完全に理解するように導かれます。彼らはキリストの比類のない魅力と比較してそれをはっきりと認識するようになります。そして彼らは聖霊に導かれて、今日の教会で非常に蔓延しているラオデキヤ人の考え方を捨て、深い魂の吟味と深い悔い改めに特徴づけられた霊的浄化を経験します。この経験はイザヤが経験したものと似ていますが、はるかに激しく、はるかに持続的です。「魂を悩ませる」と呼ばれるこの経験（レビ記 16:29; 23:27-32）は、残りの教会を最終的な贖罪と清めに備えるものです。

「ヨシュアとみ使いに関するゼカリヤの幻は、贖罪の大いなる日の、最後の場面における神の民の経験に、特別に当てはまる。…

ヨシュアがみ使いの前で嘆願したように、残りの教会は、心へりくだり揺るがぬ信仰をいだいて、彼らの助け主イエスによって、赦しと救出を嘆願するのである。彼らは**自分たちの生活の罪深さを、十分認めている。**彼らは自分たちの弱さと無価値さを知っている。』⁹

この時代、深い自己吟味と悔い改めの働きが求められています（ヨエル 2:13）

教会でいつものように冷たく、無気力で、形式主義的な儀式や式典に固執するだけでは、これを実現するには不十分です。教会や家庭で、生気のない理論的な説教をしたり、無気力で機械的な祈りを捧げたりしても、この経験は得られません。毎日、毎時間、神との交わりの中で絶え間なく神を求め、神と同化するという特徴を持つ実践的な宗教だけが、役に立つのです。

わたしたちは今、典型的な贖いの日に生きているので、教会で通常のことをするではありません。魂を悩ませるとは、キリストが、残りの教会に命じておられる進行命令です。イエスは最後の贖罪をなさうとしておられます。このお方は次の命令を出そうとしておられます。「『彼の汚れた衣を脱がせなさい』。…『あなたに祭服を着せよう』」（ゼカリヤ3:1-5）。

まもなく、イエスは大祭司として天の聖所で最後の奉仕を行うのに合わせて、ご自分の民に完全な義を与えることによって、すべてのとがと罪から彼らを清めてくださいます。自分の霊的墮落を嘆き、魂の貧しさを嘆く習慣のある人はそれを受けますが、不注意で無関心だった人は神の民から切り離されるでしょう。あなたも神の最後の贖罪の恩恵を受け、144,000人の一員となる祝福された者の一人になるでしょうか？あなたの名前は小羊の命の書に残るでしょうか？あなたはすべての不義から完全かつ永久に清められ、罪のない天使の社会に住むのに適するものとされるでしょうか。主がわたしたち全員を価値のある者とみなしてくださいように。だから、熱心になって悔い改めなさい。「神の民が神の前で心を悩まし、心が純潔になることを嘆願するときに、「彼の汚れた衣を脱がせなさい」という命令が出される。そして、『見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう』との励ましの言葉が語られる（ゼカリヤ3:4）。キリストの義というしみのない衣が試練と誘惑に耐えた忠実な神の民に着せられる。さげすまれた残りの民は栄光の衣を着せられ、世俗の腐敗に二度と汚されることはないの

ある。彼らの名は小羊の命の書に書き留められて、各時代の忠実な者の中に加えられるのである。彼らは、欺瞞者の策略に抵抗した。彼らは龍がほえても、忠誠を失わなかった。今や彼らは、誘惑者の計略から、永遠に安全なものとなった。彼らの罪は、罪の創始者の上に移された。『清い帽子』が彼らの頭にかぶせられた。』¹⁰

引用：

1. 患難から栄光へ下巻264
2. 人類のあけぼの上巻81
3. キリストへの道32、33
4. SDAバIBLE・コメンタリ[E・G・ホワイト・コメント]4巻1139
5. 同上
6. 教会への証5巻575 [強調付加]
7. 各時代の大争闘下巻213
8. サイズ・オブ・ザ・タイムズ` 1901年7月31日 [強調付加]
9. 国と指導者下巻193[強調付加]
10. 同上196

改心

エリ阿斯・リベラ著（米国）[全体を通して強調付加]



変態（本質の完全な変化）

自然には、神の偉大な力と、わたしたちの心の中で行われる神の贖いの働きについて教えてくれる美しい実例があります。蝶のサイクルは、卵、幼虫、さなぎ、成虫の4つの段階から成ります。このプロセスは短く、約1か月です。蝶は、幼虫が食べる植物の葉の裏に卵を産みます。卵が孵化すると、殻から小さな青虫が出てきます。一方、青虫は非常に貪欲で、たくさん食べて、急速に成長します。青虫が成熟すると、さなぎになります。さなぎに入った青虫は変態と呼ばれる変化を遂げ、数日後にはさなぎから美しい蝶が出てきます。

幼虫は完全に変形します。彼は、まったく新しい独特な性質を持つ、まったく別の生き物になるのです。そして、これこそ神がキリストのうちにわたしたちの霊的生活に対して意図しておられることです。「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったので

ある。」（コリント第二5:17）。神のご計画は、わたしたちの生活を変え、わたしたちのうちにご自分の御形を回復し、わたしたちの心を変えることです。このお方は次のように宣言されます、「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け、あなたがたの肉から、石の心を除いて、肉の心を与える。わたしはまたわが霊をあなたがたのうちに置いて、わがために歩ませ、わがおきてを守ってこれを行わせる。」（エゼキエル36:26, 27）

改心という言葉は、変わること、変化すること、かつて存在していたものとは全く違うものになることを意味します。この例がヨハネ16:20に「その憂いは喜びに変わるであろう」とあり、また、黙示録11:6には、「…さらにまた、水を血に変え…[る]力を持っている」とあります。

ですから、改心について語るとき、わたしたちは神が人間の**ために**、人間の**うち**になす変化の働き、人がそれによって許され、変えられる働き、信者を義とし、聖化する崇高な働きについて語っているのです。それ

は古き人が十字架につけられて埋葬され、新しい人間が新しい命に生まれる働きです。

どのように改心がなされるか

改心は、神の愛と聖霊の力によってなされる人間の中での神の働きです。サウロのような根本的な改心があります。それはタルソの人がダマスコへ向かう途中でキリストと個人的に出会ったときの非常に顕著な改心でした。サウロ

の人生はキリストの栄光の啓示によって影響を受けました。この出会いが彼の生涯をただちに変え、盲目のうちに地面にひれ伏して、「主よ、あなたはわたしに何をさせになりたいのですか」と尋ねる点にまで至りました「さあ、立って、町に入って行きなさい。そうすれば、そこであなたのなすべき事がつけられるであろう」（使徒行伝9:6欽定訳）。

キリスト教会に対する腹黒い目的を持ってダマスコに向かっていた彼は、3日間の断食と祈りを過ごし、その後バプテスマを受けた後にやっと視力を取り戻しました。それから彼はただちに、その数日前まで激しく迫害していた教会を建設するために働き始めました。サウロは今や彼の人生とメッセージの中心となっているキリストを説教したいと熱望していました。「ただちに諸会堂でイエスのことを宣べ伝え、このイエスこそ神の子であると説きはじめた」（使徒行伝9:20）。

サウロ、またはパウロ（「小さき者」の意味）とも呼ばれたサウロの改心は、神の恵みとイエス・キリストの变革をもたらす愛の働きでした。これにより、この猛烈な迫害者はイエスのために自ら迫害されるものとなり、あらゆる困難、死に直面することさえあっても、恐れることなくイエスのメッセージを宣べ伝えたのでした。ニコデモの場合のように、他のタイプの改心もあります。ニコデモがイエスを信じる自分の信仰を公にし、十字架につけられた救い主に完全に自らを明け渡したのは、彼がイエスとの

会見（ヨハネ3章）から3年経ってからでした。

わたしたちはすべてのものを神に負っている

「風は木々のこずえに音をたて、葉や草花をさらさらと鳴らせるが、目に見えないので、だれも風がどこからきてどこへ行くかを知らない。心に働く聖霊の働きもこれと同じである。それは、風の動きと同じように、説明することができない。人は自分が信仰にはいった正確な日時と場所を言ったり、改心の過程における事情を始めから終りまで説明したりすることができないかも知れない。だがそのことは、彼が信仰にはいっていないという証拠にはならない。風のように目に見えない力によって、キリストはたえず心に働きかけておられる。すこしずつ、おそらく本人の気がつかないうちに、魂をキリストへひきよせるのに役立つ印象が与えられているのである。こうした印象は、キリストについて瞑想したり、聖書を読んだり、あるいは説教者のことばをきいたりすることによって与えられるかもしれない。そしてみたまがもっと直接に訴えるとき、突然にその魂はよるこんでイエスに屈服する。多くの人はこれを突然の改心と呼ぶが、それは神のみたまが—長い間その人を説得した結果、すなわち長期間にわたる忍耐強い作用の結果である。」¹

抵抗してはならない

「では、われわれはどのようにして救われるのだろうか。…十字架から輝いている光は神の愛をあらわしている。神の愛はわれわれをみもとにひきよせている。このひきよせる力にさからわなければ、われわれは救い主を十字架につけた罪を悔いて十字架の下にみちびかれる。その時神のみたまは、信仰を通して魂に新しいいのちを生じさせる。考えること望むことはキリストのみこころに服従させられる。心と思いは『万物をご自身に従わせ』るためにわれわれのうちに働かれるキリストのみかたちに新しくつくられる（ピリピ3:21）。その時神の律法は心と思いにしるされ、わ

れわれはキリストとともに、『わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます』とすることができる（詩篇40:8）。」²

聖霊による改心

「風自体は目に見えないが、風によって生ずる結果は見た感じたりすることができる。同じように、魂に対するみたまの働きは、その救いの力を感じた人のすべての行為にあらわれる。**神のみたまが心を占領されるとき、それは生活を生れ変らせる。**罪の思いはしりぞけられ、悪い行為は放棄され、愛と謙遜と平安が怒りとねたみと争いに入れ代る。よろこびが悲しみに入れ代り、顔には天の光が反映する。だれも重荷を持ちあげる手を見たり、天の宮からくだる光を目に見たりする者はない。**祝福は、信仰によって魂が神に屈服するときに与えられる。その時、人間の目で見ることのできない力が、神のかたちにかたどって新しい人間を創造する。**」³

本物の悔い改め

「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。」（使徒行伝3:19）

「**真の悔い改めがなければ、真の改心はあり得ない。**ここで多くの人欺かれ、あまりにもしばしば彼らの経験全体が欺瞞であることがわかる。これが、教会に加わっている多くの人キリストに加わったことがない理由である。」⁴

「悔い改めて、あなたがたのすべてのとがを離れよ。さもないと悪はあなたがたを滅ぼす。」（エゼキエル18:30）

「悔い改めとは罪を悲しむことと罪を離れることを含む。人は罪の恐ろしさを知るまでは罪を捨てない。心の中で全く罪から離れなければ、生活にほんとうの変化は起らない。」⁵

しかしながら、このような悔い改めを経験するには、それがどのように生み出されるかを理解する必要がある

ます。「罪人が罪を自覚すると、キリストの愛と神聖さにも惹かれる。なぜなら、イエスが彼をご自身に引き寄せるからである。だれも魂の救いに不可欠な悔い改めを創出することはできない。人は自分自身の改心を実現することもできないように、悔い改めも自分自身でもたすることができない。悔い改めは、魂を救うために命を捧げられたキリストの愛をながめることによって心に生まれる。最も固い心を和らげるのは神の愛である。」⁶

改心の実

改心の働きは素晴らしい実をもたらす。新しい人生、清く新しくされた心、正しい精神、その他の実こそ、改心の輝かしい証拠です。「だれでもキリストにあるならば、その人は**新しく造られた者**である。古いものは過ぎ去った、見よ、**すべてが新しくなったのである。**」

（コリント第二5:17）

•**サマリヤ人の女**は、イエスに改宗すると、姦淫の人生を捨て、イエス・キリストを救い主メシヤとして告白するために街へ行った。「この女は水がめをそのままそこに置いて町に行き、人々に言った、『わたしのしたことを何もかも言いあてた人がいます。さあ、見にきてごらんください。もしかしたら、この人がキリストかもしれません』。」（ヨハネ4:28、29）

•**人の女**は、イエスに改宗すると、姦淫の人生を捨て、イエス・キリストを救い主メシヤとして告白するために街へ行った。「この女は水がめをそのままそこに置いて町に行き、人々に言った、『わたしのしたことを何もかも言いあてた人がいます。さあ、見にきてごらんください。もしかしたら、この人がキリストかもしれません』。」（ヨハネ4:28、29）

•**サマリヤの女** ヨハネ4:28、29

•解放されたときは裸だった**悪霊**は、今では服を着て正気を保っているのが見られた。改心後、彼の裸は消えた。ルカ 8:35。「人々はこの出来事を見に出てきた。そして、イエスのところにきて、悪霊を追い出してもらった人が着物を着て、正気になってイエスの足もと

にすわっているのを見て、恐れた。」(ルカ8:35)

・悪霊 ルカ8:35

・ペテロは無学な漁師だったが、改心した後は福音の忠実な牧者、学識のある人、そして光の王国の伝道者となった。マタイ4:19。「イエスは彼らに言われた、『わたしについてきなさい。あなたがたを人間をとる漁師にしてあげよう。』」(マタイ4:19)

・ペテロ マタイ4:19

・ザアカイは取税人であり、裏切り者また民の敵であると非難されたが、改心後に財産の半分を貧しい人々に与え、だました人々に賠償することを決意した。「ザアカイは立って主に言った、『主よ、わたしは誓って自分の財産の半分を貧民に施します。もしだれかから不正な取立てをしていましたら、それを四倍にして返します』。イエスは彼に言われた、『きょう、救いがこの家に来た。この人もアブラハムの子なのだから。』」(ルカ19:8、9)

・ザアカイ ルカ19:8、9

・マリヤは自分の放縦な生活のゆえに7つの悪霊に取り憑かれていたが、救出と改心の後、愛と感謝を表すためにイエスに貴重な贈り物を持ってきた。マルコ14:3。

「イエスがベタニヤで、らい病人シモンの家において、食卓についておられたとき、ひとりの女が、非常に高価で純粋なナルドの香油が入れてある石膏のつぼを持ってきて、それをこわし、香油をイエスの頭に注ぎかけた。」マルコ14:3

・マリヤ マルコ14:3

改心はキリストの卓越さをわたしたちの生活に花開かせ、伝道の精神、神の意志への服従、忠実さ、そして聖なる喜びをもたらします。主に対して改心した人の生活には、高貴で美しいものがすべて溢れるのです。

「キリストの精神は、伝道の精神である。心が新たにされた人のまず最初の衝動は、他の人も救い主に導こうとすることである。」⁷

「真の弟子はみな伝道者として神の国に生れているのである。生ける水を飲む者はいのちの泉となる。受ける者が与える者となる。」⁸

偽りの改心

宗教を告白することが流行っています。宗教的であると公言する人すべてが実際にクリスチャンであるわけではありません。自らをクリスチャンと呼ぶ人の多くは神の律法の原則に従わず、肉を喜ばせる古き人によって養われて生きています。彼らは、実際には改心していないのに、自分が改心していると思い込んでいるのです。多くの人がこう宣言します。「神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。わたしは、一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています。」(ルカ18:11、12)

心が変わっていなければ、告白に価値はありません。

偽りの改心の原因は、知識や機会がなかったからではなく、全面的かつ完全な服従がないから、つまりイエスに心を完全に開き、イエスの恵みによる変革の働きが人生に働くことを許していないことにあります。

代表的な例は、悪名がよく知られているイスカリオテのユダです。

「ユダはキリストにまったく従いきるところまで行かなかった。彼は世俗的な野心や金銭欲を放棄しなかった。キリストに仕える立場を受け入れながら、一方では天来の型にはまろうとしなかった。」⁹

あなたが自分の罪深い生き方から完全に離れようという意志を持つとき、あなたはキリストと一つになります。そしてキリストと一つになるということは、命の道と平和の領域に入ることです。

ですから、わたしたちは祈祷週に入った今、この祈祷週を、自分の心を吟味し、自分がたどっている不法の道がないか、愛情が分かたれていないか、心の王座を占める偶像がないかを確認し、イエスが王であり、わた

私たちの心の王座を占める唯一の王であるという経験を確実にする機会としましょう。(イザヤ書 33:22) **「主よ、あなたに帰らせてください、われわれは帰ります。われわれの日を新たに、いにしえの日のようにしてください。」**(哀歌5:21)

時が来た

わたしたちもヤコブのように、心の中にあった偶像を取り除き、永遠に葬る時が来ています(創世記35:2-4)。神の言葉と神の霊の力によって新しく生まれ変わるべき時です(ペテロ第一1:23)。キリストがわたしたちを自由にしてくださいる自由によって、自由になるべき時が来ました。二心を後にし、神の奇跡的な恵みによって、神ご自身の心に似た男、女、青年に変えられるべき時が来ました(使徒13:22)。イエスに「はい」と言うべき時が来た。あなたが今日イエスに明け渡すならば、イエスはあなたの人生におそらく欠けている奇跡を行ってくださるでしょう。このお方の目的は確固たるものです。「そしてわたしは彼らに**一つの心を与え、彼らのうちに新しい霊を授け、彼らの肉から石の心を取り去って、肉の心を与える。これは彼らがわたしの定めに進み、わたしのおきてを守って行い、そして彼らがわたしの民となり、わたしが彼らの神となるためである。**」(エゼキエル11:19, 20)

本物の表面的でない改心

改心は表面的なものではなく、本物でなければなりません。外面的な生活だけではなく、内面の心も変えられなければなりません。信仰の核心は、儀式や儀礼的なものを超えなければなりません。救い主の時代には、ユダヤ人や宗教指導者は敬虔さをひけらかしていましたが、イエスは彼らの生涯は空虚で不道德であると宣言なさいました。マタイ 23:27, 28。外面的な変化以上のものが求められている。外面的にも役割がありますが、「霊的な心」つまり思いが新たにされなければなりません。そうすれば新しい命がもたらされるのです。

キリストの時代のユダヤ人は、犠牲や儀式に頼り、それらが指し示している神には頼りませんでした。そして、それだけでは十分ではないかのように、彼らは失った神のご臨在を、人間の発明した無数の要求で置き換えるようになりました。自分たちの聖潔を数多くの儀式で測るところまでいきましたが、彼らの心は変わらず、誇りと偽善に満ちていました。

要求されているのは外見上の変化や改善ではなく、生活の全面的かつ完全な変革です。ホッキョクギツネの毛皮は茶色ですが、冬になると雪のように白くなります。するとキツネは別の生き物のように見えますが、実際には変わったのは毛皮だけで、その変化は冬の間はカモフラージュとなります。外見は一時的に変わりますが、その本質は同じままで、大胆に忍び寄って殺すキツネであることに変わりはありません。

「流れが清くなるには、心の泉が清められなければならない。自分で律法を守る行為によって天国にはいるとする者は不可能なことを試みているのである。律法的な宗教、敬虔の形だけを持っている者には安全がない。クリスチャンの生活は古いものを修正したり改良したりすることではなくて、性質が生まれ変わることである。自我と罪に対する死があり、まったく新しいのちがある。この変化は聖霊の効果的な働きによってのみ行われる。」¹⁰

「わたしは日々死んでいる」

わたしたちの神との歩みは日ごとでなければなりません。わたしたちの古い罪深い本性、つまり「古き人」が完全に滅ぼされるために、わたしたちは毎日、心の中に神の再生する恵みを必要としています。古き人は水のバプテスマで埋葬される一方では、その卑劣な者はまた水泳が達者かもしれません。したがって、パウロの決意の言葉は次のとおりです。「わたしは日々死んでいるのである」(コリント第一15:31)。「わたしたち個々人の品性の特性が神に完全に聖化されるよう、継続的な警戒、日々の改心が必要である。わたしたちのすべての力は罪の不純物から清めら

れ、奉仕のために訓練されなければならない。』¹¹
「パウロの聖化は、自己との絶え間ない闘いだった。『わたしは日々死んでいる』と彼は言った。毎日、彼の意志と願望は、義務と神の意志と衝突した。しかし、彼は傾向に従う代わりに、たとえそれが彼の性質にとって不快で十字架につけるようなことであっても、神の意志を実行した。もしわたしたちがキリスト・イエスにおけるわたしたちの高い召しの目標に向かって押し進みたいなら、わたしたちは自己をすべて空にし、恵みという黄金の油を補給されていることを示さなければならない。』¹²

秘訣が明らかにされる

バビロンにおけるダニエルは責むべきところのない人として描写されています。「そこで総監および総督らは、国事についてダニエルを訴えるべき口実を得ようとしたが、**訴えるべきなんの口実も、なんのとがをも見いだすことができなかった。それは彼が忠信な人であって、その身になんのあやまちも、とがも見いだされなかったからである。**」(ダニエル6:4)

これほど忠実に生きる秘訣はどこにあったのでしょうか？ ダリヨス王はダニエルの秘訣をわたしたちに明らかにしています。彼は二度の機会にダニエルの秘訣が神との絶え間ない交わりにあることを認めました。ダニエルは信仰と毎日の祈りの生活を維持し、毎日神との親密な交わりを楽しんでいました。靈感を受けた記録には次のように書かれています。「『**生ける神のしもべダニエルよ、あなたが常に仕えている神はあなたを救って、ししの害を免れさせることができたか**』。」「そこで王は大いに喜び、ダニエルを穴の中から出せと命じたのでダニエルは穴の中から出されたが、その身になんの害をも受けていなかった。これは彼が自分の神を頼みとしていたからである。」(ダニエル6:20, 23)
「真の改心は、わたしたちを日々神との交わりへと導く。直面しなければならない誘惑や、わたしたちを神からかつての無関心や罪深い忘却の状態へ引き戻す底流もあるであろう。」¹³

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。」(ヨハネ15:5)

個人的な改心

わたしたち一人ひとりが、自分自身の献身、個人的な改心を確実にする必要があります。わたしたちは皆、生きた経験を積む必要があります。キリストは心の中で奉じられ、このお方の御霊がわたしたちの愛情を支配しなければなりません。親も子供たちと同じように、キリストとの個人的な経験を通して神の救いの恵みを必要としています。わたしたちの天父が尊ばれる実を結ぶためには、それぞれが真のぶどうの木に接ぎ木されなければなりません。「あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。」(ヨハネ15:8)

「神は摂理を通してわたしたちを扱っておられる。永遠の昔から、神はわたしたちをご自分の従順な子供とするために選んでくださったのである。神はわたしたちのために死ぬために御子をお与えになった。それは、わたしたちが真理に従うことによって聖化され、自己という一切の小ささから清められるためであった。今、神はわたしたちに個人的な働き、個人的な自己放棄を求めておられる。」¹⁴

「神の都には汚れたものは何一つはいれない。その住民となるすべてのものは、この地上で心の清いものになっていなくてはならない。イエスに学んでいる者の中には、不注意なふるまいや、不適當な言葉や、下品な思いに対する嫌悪が徐々に強まってくる。キリストが心に住まわれる時、思いと行為が純潔になり、洗練されるのである。」¹⁵

結論

エノクは息子メトセラの誕生から 300

年後、神とともに歩んだ。そして 300 年以上毎日、エノクはともに歩むよう神を招きました。ついある日、事実上、神は次のように仰せになりました。「エノク、あなたは共に歩くよう、この300年もの間、わたしを招いてきた。だから、今日、わたしはわたしと共に歩むようあなたを招くために来たのである」。そして彼を天国に連れていかれました。「エノクは神とともに歩み、神が彼を取られたので、いなくなった。」

(創世記5:24)。

エノクは祈っただけでなく、神とその同胞に対する義務を忠実に果たしました。エノクは神が愛するものを愛し、神が憎むものを憎むようになりました。彼は信仰によって従順な道のうちに人生を送り、自分のすることすべてにおいて神を喜ばせました。「信仰によって、エノクは死を見ないように天に移された。神がお移しになったので、彼は見えなくなった。彼が移される前に、**神に喜ばれた者と、あかしされていたからである。**」(ヘブル11:5)。「主は言われる『今からでも、あなたがたは心をつくし、断食と嘆きと悲しみとをもってわたしに帰れ。』」(ヨエル2:12)。

今日、十分な時間をとって自分のやり方を考え、自分がイエスとの正しい関係にあるかどうかを確認する必要があります。

- 今日、あなたの心をイエスに明け渡し、変えても

らいたいですか？

- すでにイエスに献身したあなたは、自分の心がキリストのようにさらに美しくなるために、イエスへの明け渡しを新たにしたいと思いますか？
- 今すぐにあなたの心をイエスに捧げるために祈りたいですか？

一緒に祈りましょう。

引用：

1. 各時代の希望上巻202
2. 同上207、208[強調付加]
3. 同上203[強調付加]
4. 預言の霊4巻298[強調付加]
5. キリストへの道22
6. ビュー・アント・ハルト 1901年9月3日
7. 各時代の争闘上巻71 [強調付加]
8. 各時代の希望上巻233[強調付加]
9. 各時代の希望下巻216
10. 各時代の希望上巻201、202[強調付加]
11. この日を神と共に。307.
12. I-ス・インストラクター, August 24, 1899.
13. この日を神と共に。277.
14. I-ス・インストラクター, August 24, 1899.
15. 祝福の山30

罪の除去

ジェトロ・M・シトレ著 — 南アフリカ[全体を通じて強調付加]

「わたしこそ、わたし自身のためにあなたのとがを消す者である。わたしは、あなたの罪を心にとめない。」

(イザヤ43:25)

消す（除去する）とは、痕跡を残さず完全に切り除くこと、存在や記憶を消し去ること、あるいは抹消することを意味します。

預言者イザヤを通してわたしたちに伝えられた保証は、「真に罪を悔い改め、キリストの血が自分たちの贖いの犠牲であることを信じたものは、みな、天の書物の彼らの名のところに、罪の許しが書き込まれる。彼らは、キリストの義にあずかる者となり、彼らの品性は、神の律法にかなったものとなったので、彼らの罪は、ぬぐい去られ、彼ら自身は、永遠の生命にあずかるにふさわしいものとされる」¹ことを意味しています。ですから、なぜ罪の除去が必要なのか深く考えてみましょう。

不従順と罪のしみ

エデンで人が神の律法に不従順であった後、「栄光の光輪、すなわち神が聖なるアダムに与え、衣服のように彼を覆っていたものは、彼の不法の後、彼から去ってしまった。神の栄光の光は、不従順と罪を覆うことができなかった。健康と祝福の豊かさの代わりに、貧困、病気、あらゆる種類の苦しみがアダムの子孫の受ける分となった。」

²悲しいことに、人間は罪の汚れと引き換えに、大きな特権を失いました。「サタンは人間の墮落を成し遂げ、それ以来、人間から神のかたちを消し去り、人間の心に自分自身のかたちを刻み込むことがサタンの仕事となっている。」³

「罪がこの世にはいる前には、アダムは創造主と分け

隔てのない交わりをしていた。しかし人間が罪を犯して神から離れてからは、人類はこの尊い特権から切り離されてしまった。しかし、救済の計画によって、地上の住民がなお天とのつながりを保つ道が開かれた。」⁴

神の人類に対する驚くべき愛

アダムとエバが不従順のために死ぬことは確実でした。救いの計画がなかったら、彼らは禁断の果実を食べた直後に死んでいたことでしょう。

「しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。」(ローマ5:8)。「神は〔それ〕ほどに世を愛して下さった」(ヨハネ3:16)という言葉の中に表された神の愛の深さは、神の小羊が「世のはじめからほふられた」(黙示録13:8) 驚くべき啓示を通してより一層理解することができます。神は、わたしたちが創造される前から存在していた愛に動かされて、悪魔に対する敵意を約束されました（創世記3:15参照）。「[この約束]は人間とサタンの戦いを予告すると同時に、**大敵の力は、最終的に破られることを宣言した。**」⁵

「罪を犯した人間を律法ののろいから贖い、再び、天と調和させることができるものは、キリストのほかになかった。」⁶

神の驚くべき愛は、人類に対する神の完全な計画を回復するための救いの計画を通して現れました。主は、神の救いの計画を視覚的に明らかにするために犠牲の儀式を制定されました。

キリストの贖罪の象徴と記念碑

贖罪とは、キリストの犠牲の死を通して神と人類が和

解することです。アダムとエバに救いの計画を宣言した後、神は去った光の衣といちじくの葉の前かけを、キリストの義の衣と救いの衣を象徴する皮の衣に取り替えられました。これらの上着を作るためには、犠牲が払われなければなりません。なぜなら、十字架上のキリストの犠牲を予表した「血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない」からです（ヘブル9:22）。アブラハムがモリヤの地にイサクを犠牲として捧げるために建てた祭壇から、神のご臨在のためにソロモンがモリヤ山に建てた神殿、そして各時代を通じた動物の血の犠牲まで、人間の罪を消し去るキリストの血の効力を宣言する象徴や記念碑は明白でした（創世記22:2、歴代志下3:1）。「天の聖所での奉仕を正しく理解することが、わたしたちの信仰の基盤である。」⁷

聖所

「聖書で使われている『聖所』という言葉は、第一に、モーセが天にあるもののひな型として建てた幕屋を指し、第二に、地上の聖所が指し示していた天にある『真の幕屋』を指している。」⁸

カナンへの旅の途中、神はモーセを通してイスラエルに、ご自身に聖所を造るように命じられました。ご自分が彼らの間に住まれるためです（出エジプト記25:8）。「また、彼らにわたしのために聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである。」（出エジプト記25:8）

「神は、山でモーセの前に天の聖所の光景を示し、すべてのものを示された通りに造ることを命じられた。」⁹ 地上の聖所、すなわち幕屋は、庭、聖所、至聖所から構成されており、キリストの誕生から罪の除去までの預言されたキリストの働きを表しています。

1. 庭（出エジプト記27:9-

18）幕屋を取り囲み、すべての供え物がほふられたところは、大いなる本体の供え物であるイエスがわたしたちの罪のために死ぬ運命にあった地球の型です（ヨハネ12:32、33）。¹⁰罪人が自分

の罪祭を持ち込む庭への唯一の入り口は、神との契約関係への唯一の入り口としてのキリストを信じる信仰を思い起こさせます（ヨハネ10:7、9）。**焼き尽くす供え物の祭壇**（出エジプト記27:1-

8）の横に犠牲の血が注がれ、焼き尽くす供え物の灰が置かれました（レビ記6:10；申命記12:27）、それは、イエスの尊い血が流されることを予め示しており、それによってこの地上から罪の呪いが取り除かれ、火によるその清めの道を整えるのでした（マラキ4:1,3）。¹¹

犠牲の血はまた、わたしたちが聖所の中で神の御前に大胆に入ることができるのはイエスの血によってのみだということを教えています（ヘブル人への手紙10:19,20）。**洗盤**は、庭の入り口と幕屋の間にあり（出エジプト記30:17-21）、幕屋に入る前に祭司たちが両手と両足を洗うために使われましたが、それは、ニコデモに教えられた神の御前に出るために必要な霊的な清めに関する真理の適切な例証でした。それによってバプテスマもまた象徴されています（ヨハネ3:5）。¹²

2.

幕屋は聖所と至聖所に分かれていました（ヘブル9:1,2）。

A. **聖所**には次のような象徴的な家具がありました。

供えのパン（出エジプト記25:23-30）は、命のパンであるイエスにおいて成就しました（ヨハネ6:48, 33, 51）¹³。**燭台**（出エジプト記25:31-40）は教会を象徴し（黙示録1:12, 20）、み言葉のともしびを掲げることになっています（詩篇

119:105）。一方、それぞれのともしびの中の油は地上における聖霊の働きを象徴しています（ゼカリヤ4:1-6,10黙示録

5:6参照）。**香壇**（出エジプト記30:1-

7) は、わたしたちの祈りと混ざり合ったイエスのやむことなくかぐわしい執り成しを象徴しています（ヘブル 7:25、黙示録 8:3, 4）。

B. 至聖所（ヘブル人への手紙9:3-

5) には、次のような象徴的な家具や品々がありました。**契約の箱**（出エジプト記25:10-

22) は、神の神聖な臨在の象徴です。¹⁴そ

の中には、神の指によって書かれた**十戒**（**申命記10:4,**

5）の2枚の石板がありました。それらは、神の不変のご品性の表現でしたし、今もそうです。¹⁵

恵みの御座（出エジプト記 25:17-

21) は、破られた律法を覆っており、その場所こそ、神の目に見える臨在が示された場所でした（出エジプト記25:32;30:6）。これは、贖いの計画における憐れみと正義の結合を表し、偉大な神のみ座の象徴としてふさわしいものです。このお方はご自分の御名を「あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神」と宣言しておられます（出エジプト記34:5-7）。¹⁶

マナのつぼ（ヘブル人への手紙9:4）は、神が荒野の民にパンを降らせて命を支えてくださったときの神の摂理的な配慮を思い出させるものでした（出エジプト記16:32,33）。同様に今日、神はわたしたちへの配慮として、食物の問題に関する貴重な光を降り注いで来られましたが、それは集めるすべての人にとって祝福であることが証明されるでしょう。¹⁷

この光を分かち合うとき、福音を宣べ伝える扉が開かれます。こうして、健康のメッセージは第三の天使のメッセージの右腕となるのです¹⁸

芽を出した**アロンの杖**（ヘブル人への手紙

9:4）は、神が教会のために確立された秩序と指導の体系を尊重すべきことを思い出させるものでした¹⁹

地上の聖所とその典型的な儀式は、一時的に神によって制定され、イスラエルとわたしたちに犠牲制度、完全にして欠けるところのない救いの計画、そして天の聖所におけるキリストの奉仕について教えるのでした

。**十字架上のキリストの死により、地上の聖所の犠牲の儀式は取り除かれ**、今日はもはや意義を持たないのです（コロサイ 2:14、ヘブル 9:8-14）。

祭司職

イエスの祭司職と地上の祭司職との間には顕著な区別があります。

神は地上の幕屋の祭司職に仕えるためにレビ族を選ばれました（民数記1:50、出エジプト記28:1、レビ記 21:17-23）。しかし、イエスは地上で大祭司となることはおできになりませんでした。「というのは、わたしたちの主がユダ族の中から出られたことは明らかであるが、モーセは、この部族について、祭司に関することでは、ひとことも言っていない」からです（ヘブル 7:14）。大祭司はご自分の民から選ばれました（ヘブル5:1）。なぜなら、イエスが天で人類のための大祭司となられるために、このお方は彼は「確かに、天使たちを助けることはしないで、アブラハムの子孫を助けられた（天使たちの性質を取ることしないで、アブラハムの子孫の性質を取られた）。」（ヘブル2:16）レビ人の祭司職とは異なり、メルキゼデクの秩序に従うイエスの祭司職には始まりも終わりもありません。（ヘブル人への手紙 7:3）。

2つの出来事により祭司の働きが地上から天に移されたことを示していました。キリストが十字架にきぎ付けられた時、「神殿の幕が裂けたことは、ユダヤ人の犠牲と儀式がもはや神に受け入れられなくなった証拠であった」²⁰。

「衣を裂くことによって、彼は代表的な人物となることを自らたち切ったのである。彼はもはや職務を行なう祭司として神から認められなかった。」²¹

日々の犠牲

毎日、庭と聖所で犠牲を捧げる儀式が行われ、十字架上のメシヤの犠牲を予示していました。罪人は罪祭として傷のない若い動物（小羊）を捧げることが要求されました。小羊（出エジプト記

12:21)

は、世の罪を取り除く神の小羊であるイエスを表していました(ヨハネ1:29、コリント人への第一の手紙5:7)。罪人は自ら動物をほふり、その頭に手を置いて自分の罪を告白しました。

祭司はその血を取り、祭壇の角に振りかけ、残りを祭壇の底に注ぐか、聖所の香の祭壇の垂れ幕の前に振りかけたり、聖所に入る前に供え物の一部を食べたりしました。この儀式全体は、罪を罪人から聖所に移すことを意味していました(ヘブル人への手紙9:6、レビ記4:3, 7, 22, 23; 6:10; 10:17, 18)。

「祭司が朝夕、香の時間に聖所にはいるとき、日ごとのいけにえは外の庭の祭壇にささげられる準備ができていた。…〔礼拝者たち〕は、顔を聖所に向けて心を合わせ、黙祷をささげた。こうして、彼らの祈願が香の煙と共に立ちのぼった。そして、彼らは信仰によって贖罪の犠牲に予表された約束の救い主の功績にすぎた。」²²

「このようにイスラエルの罪が聖所に移されたので聖所は汚れ、そのため、罪を取り除く特別のつとめが必要となった。神は、祭壇と同様に二つの聖所の部屋についてもあがないをなし、『イスラエルの人々の汚れを除いてこれを清くし、聖別しなければならぬ』とお命じになった。」²³

贖罪の日

贖罪の日(ヨム・キプール)はティシュレイの第7月(9月から10月の間)の10日目であり、ユダヤ暦の中で今もなお最も神聖な日です(レビ記 23:27)。「特にその七月の十日は贖罪の日である。あなたがたは聖会を開き、身を悩まし、主に火祭をささげなければならない。」(レビ記23:27)

「年に一度、祭司は聖所の清めのために至聖所に入った。そこで果たされるつとめが、年ごとのつとめを完了した。(ヘブル9:7)」²⁴

「贖罪のわざがなされている間、すべての人は魂を悩まさなければならなかった。日常の働きをやめて、イスラエルの全会衆は、その日を厳粛に神の御前にへりくだって過ごし、祈り、断食し、心を深くさぐったのであった。」(ヘブル8:5) ²⁵

聖所におけるキリストの奉仕

キリストが昇天された後、わたしたちの大祭司としての働きを始められました。「1800年にわたって、聖所の第一の部屋において、この務めが続けられた。キリストの血は、悔い改めた信者のために嘆願し、彼らがゆるされ天父に受け入れられるようになってきたが、しかし彼らの罪は、まだ記録の書に残っていた。」²⁶

調査審判

「そして、地上の聖所の型としての清めが、それを汚してきた罪を取り除くことによって成し遂げられたように、天の聖所の実際の清めも、そこに記録されている罪を取り除くことによって、すなわち消し去ることによって、成し遂げられねばならない。しかし、これを完成するためには、だれが罪の悔い改めとキリストを信じる信仰によって、贖いの恵みを受ける資格があるかを決定するために、記録の書の調査がなされねばならない。したがって、聖所の清めには、調査の働き、すなわち審判の働きが含まれるのである。この働きは、キリストがご自分の民を贖うために来られる前に行なわれねばならない。」²⁷

「最終的な贖罪と調査審判の大いなる日に、審査されるのは、神の民と称する人々だけである。[ペテロ第一4:17]。悪人の審判は、これとは全く別の働きで、もっとあとで行なわれる。」²⁸

「2300日の終わる1844年に、調査と罪の除去の働きが始まった。これまでにキリストの名をとらえたことのある者はすべて、この厳密な審査を受けなければならない。生きている者も死んだ者もともに『そのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって』裁か

れる。」²⁹

「天には、人々の名と行為を記録にした書物があって、審判の決定はそれによってなされる…。

いのちの書には、神の働きをしたすべての人の名が記されている。…〔ルカ10:20；ピリピ4:3；ダニエル12:1；黙示録21:27〕。

「神の前に、『**覚えの書**』が記されているが、それには、『主を恐れる者、およびその名を心に留めている者』の善行が記録されている。」（マラキ3:16；ネヘミヤ13:14）…、神の覚えの書には、すべての正しい行為が永久に記されている。」

「**人々の罪の記録もある。**」³⁰

すべての悪行、語られたすべてのむなしい言葉が裁かれます。〔伝道の書12:14；マタイ12:36、37；コリント第一4:5；イザヤ65:6、7〕。

「**悔い改めず棄て去っていない罪は、許されず、記録の書からぬぐい去られない…**罪は、父母や妻子、そして同僚たちからは、隠し、否定し、秘密にしておくことができるかもしれない…神は、すべての不正な計算、不正な取り引きを、正確に記録しておられる。」³¹

「すべての人の行為は、神の前で調査され、忠実であったか不忠実であったかが記録されている。天の書物の中の各自の名の向かい側には、恐るべき正確さで、すべての悪い言葉、利己的な行為、義務の怠慢、隠れた罪、巧妙な偽善行為などが記入されている。」³²

「これは、なんと厳粛な思想であろう。毎日毎日が永遠の中に過ぎ去り、その日のことが天の書に記録される。われわれの行動、言葉、そして極秘の動機でさえも…たとえわれわれが忘れていても、それらは、義とするかそれとも罪に定めるかの、証言を立てるのである。」³³（同219、220）

キリスト、至聖所におけるわたしたちの仲保者

「もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリスト

がおられる。」（ヨハネ第一2:1）。ヘブル9:24もご覧ください。

「審判において、記録の書が開かれるときに、イエスを信じたすべての人の生涯が神の前で調べられる。われわれの助け主であられるイエスは、この地上に最初に生存した人々から始めて、各時代の人々のためにとりなし、現在生きている人々で終わられる。すべての名があげられ、すべての人の事情が詳しく調査される。

受け入れられる名もあれば、拒まれる名もある。もしだれかが、罪を悔い改めず、許されないまま、記録の書に残しておくならば、彼らの名は、いのちの書から消されて、彼らの善行の記録も神の覚えの書から消される…。

真に罪を悔い改め、キリストの血が自分たちの贖いの犠牲であることを信じたものは、みな、天の書物の彼らの名のところに、罪の許しが書き込まれる。

彼らは、キリストの義にあずかる者となり、**彼らの品性は、神の律法にかなったものとなったので、彼らの罪は、ぬぐい去られ、彼ら自身は、永遠の生命にあずかるにふさわしいものとされるのである。**〔イザヤ43:25；ヨハネ黙示録3:5；マタイ10:32、33〕」³⁴

わたしたちの厳粛な責任

調査審判の働きを正しく理解するためには、自分の救いについて、確固たる行動をとることが求められています。

「**自分たちの名がいのちの書にとどめられることを願うものはみな、今、残り少ない恩恵期間のうちに、罪を悲しみ、真に悔い改めて、神の前に身を悩まさないなければならない。われわれは、心を深く忠実に探らなければならない。多くの自称キリスト者がいざいでいる軽薄な精神は、捨て去らねばならない。**」³⁵

わたしたちは、恐れおののいて自分自身の救いの達成に努める必要があります（ピリピ2:12）。「調査審判の働きが終わるとき、すべての人の運命は、生か死かに決定されてしまっている。恩恵期間は、主が

天の雲に乗って来られる少し前に終了する。キリストは…宣言しておられる。『不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い聖なる者はさらに聖なることを行うまにさせよ。見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう』（ヨハネ黙示録 22:11、12）。』³⁶

結論

「義人と悪人は、その死ぬべき肉体のままで、地上で生活をしている。一人々は、植えたり、建てたり、飲んだり、食べたりしている。…真夜中の盗人のように静かに、人に気づかれずに、すべての人の運命が定まる決定的な時、罪人に対する恵みの招きが最終的に取り去られる時がやって来る。

『だから、目をさましていなさい。…あるいは急に帰ってきて、あなたがたの眠っているところを見つけるかもしれない』（マルコ13:35、36）。**目をさまして待つことにうみ疲れ、世俗の魅力に心を向ける人々の状態は、実に危険である。**実業家が利益の追求に心を奪われ、快樂の愛好家が楽しみにふけり、流行を追う女性が身を飾っているそのときに、一全地の審判者が、『あなたがはかりで量られて、その量の足りないことがあらわれた』という宣言をなさるかもしれないのである。』³⁷

神が罪の創始者を滅ぼすまでは、神の民は罪の重荷から解放されたと考えるべきではありません。**今こそ、身を悩ませ、心を深く探り、命の書から名前を除去するのではなく、罪を除去して下さるように熱心に祈るべき時です。**アーメン。

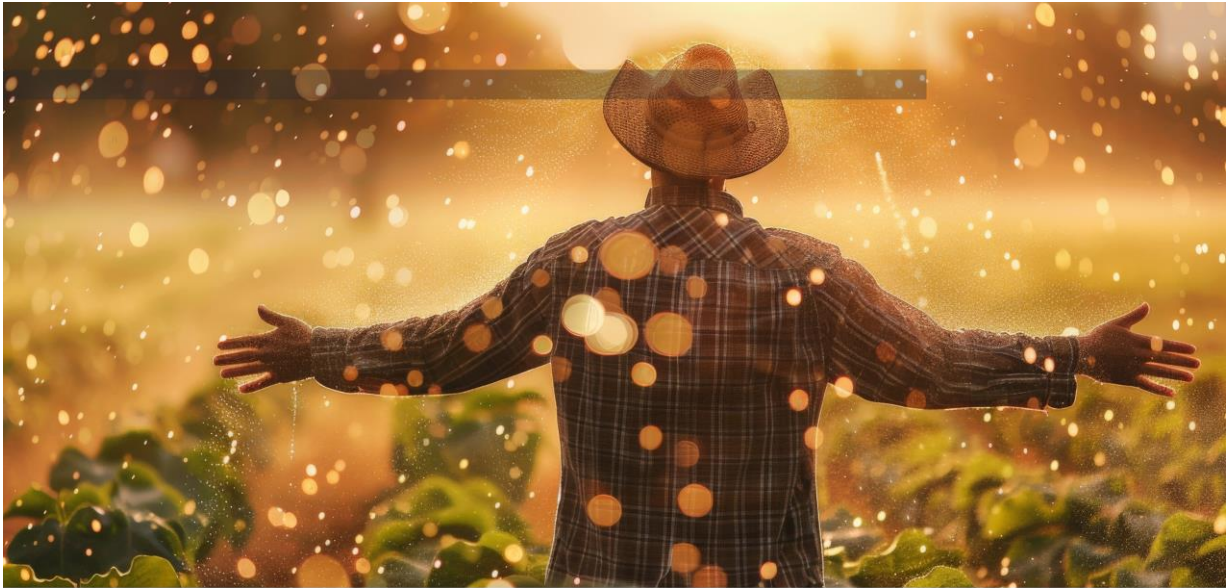
引用：

1. 主よ来たりませ93
2. エクセキット・メッセージ 1巻270
3. 神の驚くべき恵み161

4. 各時代の大争闘上巻序1 [1888版]
5. 信仰によってわたしは生きる75
6. 人類のあけぼの上巻53
7. 伝道221
8. 信仰によってわたしは生きる202
9. 人類のあけぼの上巻405
10. ヘスケル・S・N. 十字架とその影176, 178
11. 同上129, 130.
12. 同上179.
13. 同上 56.
14. 教会への証4, p. 157.
15. キリストを映して46.
16. 神の驚くべき恵み. 69.
17. 食事と食物への勧告251
18. 健康への勧告219
19. 人類のあけぼの上巻481, 487
20. 初代文集422
21. 各時代の希望下巻204
22. 人類のあけぼの上巻416
23. 同上419
24. 同上419
25. 同上420
26. 各時代の大争闘下巻136
27. 同上136、137
28. 同上211
29. 同上219
30. 同上212, 213
31. 同上219
32. 同上213
33. 同上219, 220
34. 同上215, 216
35. 同上224
36. 同上225
37. 同上225, 226

慰めの時

A. C. サス著 — オーストラリア



聖書は、「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。」(伝道の書3:1) とはつきり教えています。そのため、「慰めの時 (リフレッシュ) 」においても成就すべき時があります。

「リフレッシュ」という言葉は、東洋では穀物の最後の収穫の前に地面に降る雨を指して使われました。それは「後の雨」としても知られていました。

「東方では、種を蒔く時期に前の雨が降る。それは、種が発芽するために必要である。土地を肥やす雨の感化力の下、若い芽が出てくる。季節の終わり近くに降る後の雨は、穀物を熟させ、鎌に入れる準備をさせる。主は、聖霊の働きを表わすのに、これらの自然の働きをお用いになる」¹

旧約聖書の預言者ゼカリヤは、後の雨が降ることだけでなく、神の民が適切な時に雨が降るように祈り求めることの必要性についても言及しています。

「あなたがたは春の雨 (後の雨欽定訳) の時に、雨を主に請い求めよ。主はいなずまを造り、大雨を人々

に賜い、野の青草をおのおのに賜る。」(ゼカリヤ 10:1)

新約聖書では、使徒ペテロもペンテコステの日に集まった群衆に説教した際に「慰めの時 (リフレッシュ) 」について言及しています。その時、彼らは天から大いなる力を授けられました。聖霊が彼らの上に豊かに注がれました。彼らが経験したその出来事は「春の雨」または「前の雨」と呼ばれました。

「福音の開始にあたって、貴重な種を発芽させるために、聖霊が注がれて『前の雨』が与えられたように、その終わりにおいて、収穫を実らせるために、『後の雨』が与えられるのである。」²

使徒ペテロが「慰めの時 (リフレッシュの時) 」について語ったとき、次の聖書の一節に焦点を当てて、この祈禱週の朗読で概要が説明されているように、その出来事が成就する前にいくつかの非常に重要な段階を踏まなければならないことを明らかにしました。「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心にたちかえりなさい。それは主のみ前から慰め

の時がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである。」(使徒行伝3:19, 20)

ここに、5つの重要な点があります。

- a) 悔い改め
- b) 改心
- c) 罪の除去
- d) 慰めの時
- e) イエスの来臨

悔い改め

真の悔い改めは、自分の罪を認め、告白するように人を導きます。「神のみ言葉には、悔い改めとけんそんの実例があげられているが、そこには罪の言いわけをしたり、自己を正しいとするようなことが少しもない、真心からの告白の精神が見られる。パウロは、自分を弁護することなく、自分の罪をその恐ろしいままに描き、罪をいくらかでも軽くしようなどとは考えなかった。」³

使徒ヨハネは次のように記している、「もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであって、真理はわたしたちのうちにない。もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しい方であるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめてくださる。」(ヨハネ第一1:8, 9)。これはとても素晴らしい約束です。わたしたちが罪を告白するなら、わたしたちは許され、清められるのです。

改心

悔い改めて罪を告白した後、わたしたちは改心するよう招かれています。改心とは、わたしたちの人生において完全に180度方向転換し、反対の方向に向かうことです。主は、強制ではなく、自ら進んで、世間から主のもとへ向かうようわたしたちを招いておられます。
。「主は言われる『今からでもあなたがたは心をつくし、

断食と嘆きと、悲しみとをもってわたしに帰れ。あなたがたは衣服ではなく、心を裂け』。あなたがたの神、主に帰れ。主は恵みあり、あわれみあり、怒ることおそく、いつくしみ豊かで、災を思いかえされるからである。」

(ヨエル2:12, 13)

「品性に、習慣に、いっさいの行動に変化が起る」⁴

これはわたしたちの霊的な生活における単なる小さな改善ではなく、完全な変化です。

「であるから、もし改革が起らなければ真に悔い改めたとは言えない。質としてあざかった物を戻し、奪ったものを返し、罪を告白し、神と人とを愛するようになったならば、その人は確かに死より生に移っているのである。」⁵

罪の除去

この祈禱週でも見てきたように、告白され、捨てられた罪だけが除去される、つまり生命の書から

取り消されるのです。罪の取り消しは、わたしたちが「慰めの時(リフレッシュ)」、つまり「春の雨」を受ける前に行われなければなりません。

「福音の大きいなる働きは、その開始を示した神の力のあわれより劣るもので終わることはない。福音の開始にあつて秋の雨(前の雨)となって成就した預言は、その終局において、春の雨(後の雨)となって再び成就するのである。これが、使徒ペテロが待望した『慰め原文では[refreshing(活気づけ、回復の意)の時]』である。彼は次のように言った。『だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは、主のみ前から慰めの時がきて…イエスを神がつかわして下さるためである』(使徒行伝3:19, 20)。』⁶

後の雨のための準備

ペンテコステの日に前の雨が降ったとき、ほとんどの弟子たちは一箇所、つまり二階の広間に集まっていた。彼らはそこで十日間何をしていたのでしょうか。聖書

はこう告げています。

「彼らはみな、婦人たち、特にイエスの母マリヤ、およびイエスの兄弟たちと共に、心を合わせて、ひたすら祈りをしていた。」（使徒行伝1:14）

「こうした準備の日々は、深く心をさぐる日々であった。弟子たちは霊的な不足を感じ、救霊の働きをするのにふさわしい者となることができるように、聖油が注がれることを祈り求めた。彼らは自分たちのために祝福を求めたのではない。彼らは魂の救いという重荷を負っていた。」⁷

これは、使徒行伝2:1-4で成就しました。

「聖霊の約束は一時代や一族に限られたものではない。キリストは、み霊の聖なる感化は世の終わりにいたるまで、キリストに従う者の上にあると宣言なさった。ペンテコステの日から現代にいたるまで主とそのみわざに自分のすべてをささげてきた人々に、助け主が送られてきた。」⁸

今日、聖霊はわたしたちを教え、すべての真理に導くために与えられています。ある程度わたしたちに与えられています。約束された後の雨は、神の働きを完成し、永遠の福音の宣教を完結するために必要です。そして、この約束は成就します。

「その後わたしはわが霊をすべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ、娘は預言をし、あなたがたの老人たちは夢を見、あなたがたの若者たちは幻を見る。その日わたしはまたわが霊をしもべ、はしために注ぐ。」

（ヨエル2:28, 29）

ヨエル書の「その後」という言葉を読むとき、終わりの日に聖霊が最大限に与えられる前に、ある仕事が成し遂げられなければならないことがわかります。ヨエル書2章の前の節で、預言者は後の雨の前になされなければならない仕事について明らかにしています。

「民を集め、会衆を聖別し、老人たちを集め、幼な子、乳のみ子を集め、花婿をその家から呼びだし、花嫁をその部屋から呼びだせ。主に仕える祭司たちは、廊と祭壇との間で泣いて言え、『主よ、あなたの民をゆるし、あなたの嗣業をもちもろの国民のうちに、そしり

と笑い草にさせないでください。どうしてももちもろの国民に『彼らの神はどこにいるのか』と言わせてよいでしょうか』。その時主は自分の地のために、ねたみを起こし、その民をあわれまれました。」（ヨエル2:16-18）

罪が消し去られなければ、あるいは取り消されなければ、だれも「慰めの時」あるいは「後の雨」を受けることはできません。しかし、残念なことに、多くの人が罪深い状態のまま、その大いなる祝福を受けることを期待し、悔い改めや改心をせずに、後の雨の時に改革されるだろうと期待しています。次の文に書かれているように、そのようなケースは望みがありません。

「わたしは、多くの人々が、必要な準備をおろそかにしていながら、主の日に立ち得て神のみ前に生きるにふさわしいものとなるために、『慰めの時』と『春の雨』後の雨とを待っているのを見た。ああ、わたしは、なんと多くの人が、悩みの時に、避け所がないのを見たことだろう。彼らは必要な準備を怠った。だから、彼らは、聖なる神の前に生きるのに適したものと彼らをするためにすべての者が持たなければならない慰めを、受けることができなかった。…すべての罪、誇り、利己心、世を愛する心、すべての悪い言葉や行為に勝利するのとなければ、だれひとりとして、『慰め』にあずかることができないのを、わたしは見た。」⁹

「神の日のための準備を遅らせる者は、悩みの時やそれ以後においては、準備することができない。こうした人々は、すべて絶望である。」¹⁰

「わたしたちは日々、御霊は魂と品性に働きかけてくださるよう、神の御霊の啓示を求めなければならない。ああ、些細なことに気をとられて、どれほどの時間が無駄になったことだろう。悔い改めて改心しなさい。それは主の御前から慰めの時が来るとき、あなたの罪は消し去られるためである。」¹¹

「今日、あなたは自分の器を清めて、天の露のために、すなわち後の雨に備えなければならない。なぜなら、後の雨は来て、神の祝福がすべての汚れから清められたすべての魂を満たすからである。今日、わたしたち

の仕事は、わたしたちの魂をキリストに明け渡し、主の御前からの慰めの時にふさわしいものとされること、聖霊のバプテスマにふさわしいものとされることである。」¹²

後の雨は注がれるであろう

「地上に神の最後のさばきが下るに先だって、主の民の間に、使徒時代以来かつて見られなかったような初代の敬虔のリバイバルが起きる。神の霊と力が神の子供たちの上に注がれる。」¹³

「キリストの体の肢体が最後の闘争の期間『ヤコブの悩みの時』に近づくにつれて、彼らはキリストへと成長し、このお方の御霊を大いに受けるようになる。第三のメッセージが大いなる叫びにまで盛り上がる時、そして、終わりの働きに大いなる力と栄光が伴うとき、神の忠実な民はその栄光にあずかるようになる。彼らをよみがえらせ、苦難の時を乗り切る力を与えるのは後の雨である。彼らの顔は第三天使に伴う光の栄光で輝くであろう。」¹⁴

「シオンの子らよ、あなたがたの神、主によって喜び樂しめ。主はあなたがたを義とするために秋の雨を賜い、またあなたがたのために豊かに雨を降らせ、前のように、秋の雨と春の雨とを降らせられる。」(ヨエル 2:23)

「『神がこう仰せになる。終わりの時には、わたしの霊をすべての人に注ごう。そしてあなたがたのむすこ娘は預言をし、若者たちは幻を見、老人たちは夢を見るであろう。その時には、わたしの男女の僕たちにもわたしの霊を注ごう。そして彼らも預言をするであろう。』」(使徒行伝2:17, 18)

「悩みのときの開始にあたって、われわれが出て行ってもっと徹底的に安息日を宣べ伝えたとき、われわれは聖霊に満たされた。」¹⁵

「『悩みの時の開始』とここに言われているのは、災害が降り始めるときのことではなくて、キリストがまだ聖所におられて、災害がくだり始める直前の短い期間をさしている。救いの働きが終了しつつあるその時、地上には悩みが起こり、諸国民は怒り狂うが、第三天使

の働きを妨げないように、まだ抑制されている。その時に、『後の雨』、すなわち、主のみ前から慰めの時がきて、第三天使の大きな声に力をそえる。そして、最後の七つの災害がくだるときに、聖徒たちが立つことができるように準備を与える。」¹⁶

「神の民はその働きを成し遂げたのである。彼らは『後の雨』と『主のみ前から』来る『慰め』を受けて、自分たちの前にある試みの時に対する準備ができた。天使たちは、天をあらゆるこちらへと急ぎまわっている。一人の天使が地から戻ってきて、自分の働きが終わったことを告げる。すなわち、最後の試みが世界に臨み、神の戒めに忠実であることを示した者はみな、『生ける神の印』を受けたのである。その時イエスは天の聖所でのとりなしをやめられる。」¹⁷

集団としての経験

満ちみちた聖霊を授けてくださるという神のすばらしい約束が記された聖書を学ぶとき、わたしたちは、前の雨のときに聖霊の力が「皆が心を一つにして同じ場所にいた」人々に集団的に与えられたことを理解すべきです。後の雨のとき、神の民は同じような経験をできるようになります。ゼカリヤ書の聖書の一節にはこうあります。

「あなたがたは春の雨（後の雨：欽定訳）の時に、雨を主に請い求めよ。主はいなずまを造り、大雨を人々に賜い、野の青草をおのおのに賜る。」(ゼカリヤ10:1)

わたしたちは何度もこの聖書の節を読んできましたが、「後の雨の時に雨を主に願いなさい」という言葉に重点を置き、主が「野のすべての草に」雨を与えるという節の最後の部分を忘れていました。この最後の言葉は、その時には清められた教会であるはずの野（教会）にいるすべての人が春の雨を受けることを示しています。後の雨の祝福を受ける準備を怠った人々が、彼らのうちに見いだされることはありません。彼らは、力強いふるいによって神の残りの民から排除されます。靈感の言葉はそれを非常に明確にしています。

「神はその民をふるいにかけておられる。神は清く聖なる教会をお持ちになる。わたしたちは人の心を読むことはできない。しかし、主は教会を清く保つ手段を備えておられる。」¹⁸

「ある者は、ふるい落とされて、途中に残された。勝利と救いを尊んでそのために忍耐強く嘆願し苦悩した人々に加わらなかった不注意で無関心な人々は、それにあずからず、暗黒のうちに取りのこされた。そして、彼らの場所は、真理を信じて隊列に加わる人々によって、直ちに補充された。」¹⁹

イエスの来臨

「すべての人を救う神の恵みが現れた。そして、わたしたちを導き、不信心とこの世の情欲とを捨てて、慎み深く、正しく、信心深くこの世で生活し、祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望むようにと、教えている。」(テトス2:11-13)

「キリストの品性が完全にキリストの民の中に再現されたときに、彼らをご自分のところに迎えるために、主はこられるのである。主イエス・キリストの再臨を待ち望むばかりでなく、それを早めることが、すべてのクリスチャンの特権である。」²⁰

「そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るとであろう。また、彼は大きなラッパの音と共に御使たちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。」(マタイ24:30, 31)

「人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来るとき、彼はその栄光の座につくであろう。そして、すべての国民をその前に集めて、羊飼いが羊とやぎとを分けるように、彼らをより分け、羊を右に、やぎを左におくであろう。そのとき、王は右にいる人々に言うであろう、『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎな

い。』(マタイ25:31-34)

結論

クリスチャン時代の初めに初期の弟子たちが以前の雨を受けたときの体験について読むと、二階の広間にいた人々が集団で聖霊のバプテスマを受けたことがわかります。他の教会員はその後、個別に受けました。わたしたちの時代にも同じことが起こるでしょうか。後者の雨については語られており、わたしたちは将来起こる出来事としてそれについて頻繁に祈ってきました。それはいつ実現するのでしょうか？この素晴らしい祝福を受けるのが遅れたのは主の責任ですか？聖書は次のようにわたしたちに教えています。「このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物を知っていることとすれば、天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さらないことがあるか」。(ルカ11:13)

数週間後、神の残りの教会の代表者たちが集まります。2025年の世界総会で代表者たちに聖霊が注がれるでしょうか？その時、後の雨のすばらしい約束を受けられるでしょうか。親愛なる兄弟たちよ、その偉大な祝福に備えましょう。主は聖霊のバプテスマを受けたいと願うすべての人を助けてくださいます。預言の霊はわたしたちにこう助言しています。

「神の天使たちは品性の発達を見守り、道徳的価値を量っている。恩恵期間はほとんど終わりかけているが、あなたは準備ができていない。ああ、警告の言葉があなたの魂に焼きつけられる！準備せよ！準備せよ！」²¹

皆さんの仲間の僕として、2025年の総会に代表として参加するすべての人にお願いがあります。どうか、空になって、先入観を捨てて、徹底的な準備をし、神と人との平和を得て、良心の呵責なく、聖霊のバプテスマを受ける準備をして、総会へ向かってください。待ち望まれていた約束が果たされないとだれが知るでしょうか。そしてわたしたち皆、代表ではない兄弟たちは、自分の罪が除去されるように、自分の生活を吟

味し、神と互いに罪と過ちを告白し、許しを求めるべきです。そして主がご自分の僕たちに大いなる祝福の雨を降らせてくださるよう、総会の成功を求めて熱心に祈るべきです。預言の霊はわたしたちにこう勧めています。

「クリスチャンは不和をとり除き、失われた者を救うために神に献身しよう。信仰をもって祝福を求めるときに、それは与えられるのである。使徒時代の聖霊の降下は、『秋の雨』であったが、その結果はすばらしかった。しかし『春の雨』はもっと豊かなものとなるであろう。」²²

「今日、あなたは自己を空にし、妬み、嫉妬、悪意、争い、また神を辱めるすべてのものを空にすることができるように、神に自らを捧げるべきである。今日、天の露、後の雨に備えるために、自分の器を清めるべきである。なぜなら、後の雨は来て、神の祝福がすべての汚れから清められたすべての魂を満たすからである。今日、わたしたちの仕事は、わたしたちの魂をキリストに明け渡し、主の御前からの慰めの時にふさわしいものとされること、聖霊のバプテスマにふさわしいものとされることである。」²³

アーメン！

引用：

1. 牧師への証506
2. 各時代の大争闘下巻382
3. キリストへの道51
4. 同上74
5. 同上76
6. 各時代の大争闘下巻382〔()は原文のまま〕
7. 患難から栄光へ上巻31
8. 患難から栄光へ上巻45
9. 初代文集149、150
10. 各時代の大争闘下巻394
11. あなたがたは力を受けるであろう319
12. ビュー・アクト・ハラト 1892年3月22日
13. 各時代の大争闘下巻190
14. ビュー・アクト・ハラト 1862年5月27日
15. 初代文集93
16. 同上173
17. 各時代の大争闘下巻385、386
18. 教会への証1巻99
19. 初代文集439、440
20. 主よ来たりませ 112
21. 教会への証2巻401
22. 各時代の希望下巻377
23. 神の驚くべき恵み205

イエス・キリストの来臨の時

マルセロ・ポンス著 — ドイツ

「祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望むようにと、教えている。」(テトス2:13)

「聖書に啓示された最も厳粛で、最も輝かしい真理の一つは、キリストが、贖罪の大きな業を完成するためにふたたび来られるという真理である。長い間、「死の地、死の陰」をたどってきた神の旅人たちにとって、「よみがえりであり、命で」あり、「追放されたものを帰らせ」られる主の出現の約束は、尊く喜びに満ちた希望であった。キリストの再臨という教義は、聖書の基調そのものである。」¹

わたしが家族と初めて教会の集会に参加したのは、11歳のときでした。そこで初めて、イエス・キリストの来臨の時が再び地球に来るという素晴らしいメッセージを聞き始めました。預言の中で明らかにされた偉大な出来事は、預言通りの時期に正確に成就しており、わたしたちがその出来事を間もなく見ることができるという証拠です。

このお方の約束

イエスが最後に祈るためにゲツセマネに行かれる少し前に、イエスは弟子たちに、地上での使命が終わりに近づいているため、彼らをおいて、今は一緒に行けない場所に戻ることを宣言されました。

悲しみとおそらくは見捨てられると感じた弟子たちの自然な反応を見て、イエスは彼らにこう言われました。「あなたがたは、心を騒がせないがよい。」(ヨハネ14:1)

その言葉は、彼らに希望を与えました。そして、彼らと同じようにまた、イエスは、信者一人ひとりが、イエスは自分たちの生活に関するすべての事情を知っておられ、彼らの魂が平安を得るために必要な全てのものを

有しておられるということを知って確信を持てるようにしたいと望んでおられます。それからこのお方は彼らに次のように言われました。「わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために場所を用意していくのだから。」(ヨハネ14:2)

住まいとは家庭を意味しており、家庭とは通常、わたしたちがみな安全、平和、幸福を見いだす場所です。その約束は、わたしたち一人ひとりを大いに鼓舞するものとなるべきです。わたしたちはまた「おおかみと子羊とは共に食らい、ししは牛のようにわらを食らう」家郷に着くのです(イザヤ65:25)。その家郷は、今日わたしたちに悲しみや不安を生じさせるいっさいのものから全くかけ離れたものであり、そこで神は、「人の目から涙を全くぬぐいとってくださる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。」(黙示録21:4)

しかし、次の約束は先の約束と同様におおいなものでした。「そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。」

(ヨハネ14:3)。「また来る」は、その時弟子たちが必要としていた乳香でした。彼らはまだ自分たちを待ち受けている試練を知らなかったが、それ以来、この約束が彼らの注意の中心となり、イエスの再臨を説教しに出て行き、あらゆる国民、部族、言語、民族にイエス・キリストを知らせようと努める動機となりました。

このお方の昇天と来臨

復活から40日後、イエスは弟子たちを、ベタニヤ近くのオリブ山へ連れて行かれました。そこはイエスが拒

絶され、死刑を宣告されたエルサレムの町の前でした。それは別れの時であり、見いだされた迷子の羊を代表するこの男女のグループに最後の指示を与える機会でした。イエスの言葉は彼らの欠点や失敗を非難するものではなく、最も深い優しさと同情の言葉でした。

「祝福のうちに、そしてあたかも主の守りを保証するかのように、両手をひろげて、イエスはゆっくり彼らを離れて上昇され、地上のどんな引力よりも強い力によって天の方へ引きあげられた。イエスが上の方へのぼって行かれると、畏敬の念にうたれた弟子たちは、昇天される主の最後の面影を目をこらしてみつめた。栄光の雲がイエスを彼らの目からかくした。そして雲のような天使たちの戦車がイエスを受けると、『見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいるのである』ということばが弟子たちのもとに戻ってきた（マタイ28:20）。同時に天使の合唱隊から最高の美しさおよびに満ちた音楽の調べがただよってきた。』²

そのとき、人間の姿をした二人の強力な天使が、天を見つめていた弟子たちへの同情と愛から、彼らに近づき、尋ねました。「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう。」（使徒行伝1:11）。これはイエスがずっと前に彼らに告げておられた「人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来るとき、彼はその栄光の座につくであろう」というメッセージと同じでした（マタイ25:31）。これは、ヨハネがパトモス島で受けていた「見よ、彼は、雲に乗ってこられる。すべての人の目、ことに、彼を刺しとおした者たちは、彼を仰ぎ見るであろう。また地上の諸族はみな、彼のゆえに胸を打って嘆くであろう。しかし、アメン。」と同じ啓示でした（黙示録1:7）。天使たちは、昇天するのを見ていたのと同じイエスが、同じ有様で再び来られることを彼らに保証しました。確かに、イエスは雲に乗って来られ、すべての人の目

がイエスを見るのです。

このお方の来臨のしるし

終わりの時についてもっと理解することは弟子たちの注意を引くものでした—

そしてそれはわたしたちの注意も引くはずで、彼らはひそかにイエスのもとへ来てたずねました。「どうぞお話しください。いつ、そんなことが起こるのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか」（マタイ24:3）。

技術が発達し、近代的な交通手段で旅行する場所では、目的地までの残りの距離や選択したルートの変更の可能性について、衛星ナビゲーターやGPSデバイスが発信する信号に細心の注意を払います。道路近くの標識も役立ちます。聖書の預言は、わたしたちがどこにいるかを時間通りに知らせてくれるGPSのようなもので、準備を整えて安全に目的地まで案内してくれます。

欺瞞

「そこでイエスは答えて言われた『人に惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がキリストだと言って、多くの人を惑わすであろう。』（マタイ24:4, 5）

なぜキリストは終わりの前の最初のしるしとしてこれを提示なさったのでしょうか。答えは、使徒ペテロによって次のように与えられています。

「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししののように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。」（ペテロ第一5:8）。親愛なる兄弟姉妹の皆さん、サタンも聖書の預言を知っており、キリストの再臨が彼の恐怖政治に終止符を打つことを知っています。だからこそ、彼は非常に狡猾で陰謀を駆使して、まるでししが獲物を攻撃する前に観察するように、真実の一部を混ぜ合わせた偽りの教義を導入して信者をわなに陥らせるのです。イスラム教、仏教、不可知論（ふかちろん：哲学の一種）、その他の哲学的潮流が世界中に広まったこと

により、天地の創造者である唯一の真の神のご品性に対する人間の認識がゆがめられ、人は唯一の真の知識の源である聖書から遠ざけられています。

わたしたちの唯一の安全は、多くの祈りと献身をもって聖書を研究することにあります。それだけがわたしたちを誤りから守ることができます。もしわたしたちがそうするなら、たしかに次を確認することができます。「ただ律法とあかしに求めよ。もし彼らがこの言葉によって語らないなら、それは彼らのうちに光がないからである。」

(イザヤ8:20欽定訳)。

もしそれらを頻繁に研究するなら、わたしたちを確固たるものにすることができる唯一の宝、『そう記されている』を思いにたくわえることができます。しかし、警告：技術の進歩に伴い、信者が従来の紙の聖書を読むことを放棄しているのを目にします。一方で、完全な図書館、教科、賛美歌などを電子機器に常に持ち運ぶことが容易になりました。しかしその一方で、わたしたちに届いたメッセージのわずかなサインや、ちょっとした気を散らす瞬間に、わたしたちは勉強を放棄し、すぐに思いはその瞬間とは関係のない別のことに変わってしまいます。サタンは、この方法を使って、いとも簡単に信者たちを真理の研究から引き離すことに何度も成功してきました。

戦争、疫病、飢饉、地震

イエスをご自分の弟子たちに次のように警告されました。「また、戦争と戦争のうわさを聞くであろう。注意していなさい、あわててはいけない。それは起こらねばならないが、まだ、終わりではない。民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに、きんが起り、また地震があるであろう。」(マタイ24:6, 7)

近年、わたしたちは国々が生きている大変動を目撃してきました。現在、だれもが平和を求めている一方で、大規模な戦争が勃発し、世界中で何千人もの人々が命を落としています。多くの国での戦争や政治的不安定によって引き起こされた何千人もの難民の避難は、彼らをさまざまな方向に導き、痛みと飢餓が

蔓延する真の人的危機を生み出しています。こうした恐怖にも関わらず、大国の億万長者の予算は、戦争を続けるための武器や弾薬の購入に割り当てられています。

近年、わたしたちは国々が生きている大変動を目撃してきました。現在、だれもが平和を求めている一方で、大規模な戦争が勃発し、世界中で何千人もの人々が命を落としています。多くの国での戦争や政治的不安定によって引き起こされた何千人もの難民の避難は、彼らをさまざまな方向に導き、痛みと飢餓が蔓延する真の人的危機を生み出しています。こうした恐怖にも関わらず、大国の億万長者の予算は、戦争を続けるための武器や弾薬の購入に割り当てられています。

一方、ある国では食糧が豊富にあり、ファストフードやジャンクフードの摂取で多くの人が病気になり、毎日何千トンもの食糧がゴミ箱に捨てられている一方で、何千人もの人が飢えで死んでいる場所もあります。21世紀には、あらゆる技術が進歩し、物資の輸送が容易かつ迅速に行えるようになったため、そのような状況を受け入れがたいことです。飲料水がないために病気になったり、食べるものがないため衰弱したりして人が死ぬ場所もあります。ここ数十年の間に発生した自然災害も、イエスが言及したしるしの一つです。干ばつにより地球上の一部の地域で生命が絶滅する一方、異常な大雨や竜巻、ハリケーンによる洪水は破壊と何千人もの犠牲者を残します。近年、さまざまな場所で激しい地震が発生し、その勢力が増しているだけでなく、犠牲者の数も増えています。

「地震、大竜巻、火事、洪水による破壊、人命財産の大損害などを、なんと度々耳にすることであろう。一見、こうした災害は、人間の力を超えた自然の猛威が突発的に起こしたものであると思われるであろう。しかし、その中であって、神のみこころを悟ることができるのである。神は、こうした方法によって、人々に、彼らの危険を自覚させようとしておられるのである。」³

これらの現象の説明と防ぐ方法を求めている科学者や哲学者は、すべては気候変動の産物であり、また

自然がこのように反応する原因はこれだと結論付けています。繰り返しになりますが、人間の理論は、これらの出来事の本当の理由から人々の耳をそらします。人間の邪悪な行為によって自然が苦しみ、変化しているのは事実ですが、イエスが言及したしるしであるこれらのことを無視してはなりません。また、地球を破壊した人々が苦しむことになる結果も無視してはなりません。「諸国民は怒り狂いましたが、あなたも怒りをあらわされました。そして、死人をさばき、あなたの僕なる預言者、聖徒、小さき者も、大いなる者も、すべて御名をおそれる者たちに報いを与え、また、地を滅ぼす者どもを滅ぼして下さる時がきました。」(黙示録 11:18)。創造の大いなる働きは完全に根絶されようとしています。そしてその悪化に責任のある人々は罰せられます。

イエスがご自分の弟子たちに宣言されたこれらの出来事は、時間を区別する方法を知るためのガイドとして役立つでしょうか。はい、たしかに役立つと思います。わたしたちは日にちを設定することはできません。ただししるしを解釈し、わたしたちの世界とその住民に残された時間があまり多くないことを理解できるだけです。「その日、その時は、だれも知らない。天の御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。」(マタイ 24:36)

歴史は繰り返す

イエスは、終わりの時は洪水の前と同様であろうと指摘されました。「人の子が現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう。すなわち、洪水の出る前、ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていた。そして洪水が襲ってきて、いっさいのものをさらって行くまで、彼らは気がつかなかった。人の子の現れるのも、そのようであろう。」(マタイ24:37-39)

食べること、飲むこと、結婚することは違法なことではありません。これらが神にとって忌むべきものとなったのは、人間が極端な行動をとったからです。今日最も一般的な病気は、悪い食習慣や飲酒習慣、座りがち

な生活、健康に有害な物質の使用や乱用が主な原因です。大都市で吸い込むような有毒物質への長期的にわたる露出や、タバコや麻薬の使用は多くの病気の原因となっているだけでなく、退行性疾患や自己免疫疾患になりやすい遺伝子変異の原因にもなっています。ソドムとゴモラで起こったことや、約束の地を目前にしたシテムのイスラエルの人々の体験は、官能性と制御されない情熱が、人間を神の前で想像し得る最も忌まわしく下劣な行為に導く可能性があることを教えるために記録された警告です。「どの時代にも、官能の耽溺という岩に乗り上げて難破した人々が大量にいた。時が終わりに近づき、神の民が天のカナンの境界に立つとき、サタンは、昔と同じように、彼らをよい地にはいらせまいとして、いっそう努力する。彼はひとりひとりにわなをしかける。気をつけなければならないのは、無知で無教育な人々ばかりではない。彼は最も高い地位、最も聖なる職務の人々をも誘惑する。もし彼らをいざなってその魂を墮落させることができれば、彼らを通して多くの人々を滅ぼすことができる。そして彼は今も、三千年前に用いたのと同じ手段を用いる。この世の交わり、美貌の魅力、快楽の追求、歓楽、安楽、飲酒などによって、彼は第七条を犯させようとする。」⁴

このお方の来臨を早める

「主イエス・キリストの再臨を待ち望むばかりでなく、それを早めることが、すべてのクリスチアンの特権である。(ペテロ第二3:12文語訳参照) キリストの名をとるすべての者が、神のみ栄えのために実を結ぶなら、福音の種は、どんなにすみやかに、全世界にまかれることであろう。世界の最後の大収穫は、急速に熟すであろう。そして、この尊い実を集めるために、キリストはおいでになるのである。」⁵

イエス・キリストの再臨という祝福された希望について語ることは、わたしたちの特権です。また、バプテスマのヨハネが主の初臨の道を備えるために行なったのと同じ改革の働きを行なうことも、わたしたちの特権です。

「改革の大きな主題は、人々を奮い立たせ、大衆の心をかき立てるべきである。すべてのことにおける節制は、神の民を偶像崇拜、大食い、衣服やその他のものにおける浪費から引き戻すために、メッセージと結び付けられるべきである。」⁶

今こそ、神の戒めに従うことで、わたしたちが神を本当に愛していることを明らかにするべき時であり、生活を変える時です。無駄にする時間はありません。わたしたちは、天の住まいに移される準備をしている人々の品性を表さないものすべてに対して、断固として扉を閉ざさなければなりません。わたしたちの行いは、「わたしたちの国籍は天にある。そこから、救主、主イエス・キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる。」（ピリピ3:20）ということを実証するべきです。

わたしたちの準備

「ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも減びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。」（ペテロ第二3:9）

わたしたちが今日享受している恩恵期間の唯一の目的は、わたしたちがそれをキリストの来臨という大いなる日のために献身と準備に使用するためです。一日過ぎることは、終わりへのカウントダウンにおいて一日減ることを意味しています。イエスがまだ戻って来られないのは、ただわたしたちに時間を与え、徹底的な悔改めと、生活における深い本物の改心を経験できるためです。

わたしたちの救出は、しみも汚れもない小羊であるキリストの尊い血によってなされました（ペテロ第一1:18, 19）。それは、「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」住まいに到着するためです（コリント第一

2:9）。この世が提供する魅力、祝宴や伝統、不必要なファッションや装飾、不健康な食べ物や飲み物、金銭やこの世の所有物への愛によって、主の再臨と、また今こそ準備すべき時であるというメッセージからわたしたちを引き離さないようにしましょう。

結論

神の恵みだけが、主の再臨に備えるために助けることができます。聖霊の働きだけが、悔い改めと改心の呼びかけにおいてわたしたちを説得することができます。わたしたちの日々の祈りが「御国が来ますように」となるように。祝福された希望が、悪と苦しみに満ちたこの暗い世界でわたしたちの旅路を照らすたいまつのように。わたしたちの目的が、最高の賞与（ピリピ3:14）を目指して、毎日、すべての行動においてイエスを反映するために、目標に向かって絶えず努力することでありますように。純粹で汚れない宗教（ヤコブ1:27）が、わたしたちの中のキリストという結果になりますように。

「キリストの品性が完全にキリストの民の中に再現されたときに、彼らをご自分のところに迎えるために、主はこられるのである。」⁷
マラナタ、主が来られる！主は宣言なさいます。「確かに、わたしはすぐに来る。アーメン。主イエスよ、そのとおり、来てください。」（黙示録 22:20）。アーメン。

引用：

1. 各時代の争闘上巻385
2. 各時代の希望下巻381、382
3. 国と指導者上巻244
4. 人類のあけぼの下巻71
5. キリストの実物教訓47
6. 教会への証3巻62
7. キリストの実物教訓47

栄光の王国

ロムロ・ボルジェス著 — ブラジル

この祈禱週を終えるにあたり、わたしたちは秘密と発見に満ちた旅を終えようとしているかのようです。聖書は、ある啓示から次の啓示へとわたしたちを導き、羅針盤の役割を果たしてきました。使徒行伝3:19と20の聖句に基づいて、わたしたちは悔い改め、改心、罪の除去、慰めの時、イエスの再臨などの重要なテーマを探求してきました。さて、最終回は「栄光の王国」について掘り下げていきます。

この王国は、地上の境界や人間の時間によって制限される普通の王国ではありません。それは、宇宙そのものと同じくらい広大で堂々とした永遠の現実であり、わたしたちの主イエス・キリストの揺るぎない正義に根ざしています。時と嵐の試練に耐える灯台のように、この王国はダニエル書 2 章 44

節に次のように描写されています。「それらの王たちの前に、天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく、その主権は他の民にわたされず、かえってこれらのもろもろの国を打ち破って滅ぼすでしょう。そしてこの国は立って永遠にいたるのです。」

したがって、この栄光ある王国の永遠の約束と一緒に探求するよう皆さんをお招きします。

恵みの王国と栄光の王国

聖書は、神の王国を2つの異なる段階を浮き彫りにしています。

- (1) 恵みの王国と
- (2) 栄光の王国

栄光は先に恵みが現れなければ存在できません。したがって、栄光の王国に入るには、まず恵みの王国に

あずかることが不可欠です。

イエスがガリラヤで宣教を始められたとき、次の言葉で神の国の到来を宣言されました。「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ。」(マルコ 1:14, 15)

「イエスが教えたり病人をいやしたりしながらガリラヤを旅行されると、町や村から、群衆がみもとに集まってきた。…この世界にとって、このような時代はこれまでかつてなかった。天の神が、人々のもとにくだられたのである。イスラエルの救いを長い間待って、飢えかわいていた魂は、いま恵み深い救い主の恩恵のふるまいにあずかった。」¹

イエスが告げた恵みの王国は、カルバリーの十字架で頂点に達しました。そこでイエスはわたしたちの代わりになり、罪の宣告からわたしたちを贖うためにわたしたちの身代わりとして死なれました。イエスの恵みの備えにより、人類は罪の許し、神との和解、そして完全な救いを受けます。エペソ人への手紙2章8節にこう書かれています。「あなたがたが救われたのは、実に恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。」

イエスはまた、再臨のときに将来、神の王国が来ることもお教えになりました。イエスの様々な教えの中で、この点についてマタイ25 章 31 節から 34 節が語っていることに注目します。

「人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えてくる時、彼はその栄光の座につくであろう。そしてすべての国民をその前に集めて、羊飼が羊とやぎとを分けるように、彼らをより分け、羊を右に、やぎを左におくであろう。そのとき、王は右にいる人々に言うであろう、『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあな

たがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。』(マタイ25:31-34)

「キリスト初臨のメッセージが、キリストの恩恵の王国を宣言したように、キリスト再臨の使命は、キリストの栄光の王国を宣言している。そして第二の使命は、第一の使命と同じに、預言に基づいている。」²

マタイ章にある栄光の王国を指す「王国」という言葉は、イエスが神の普遍的な王国を確立する終わりの時代に何が起こるかを説明するために使われています。この出来事は将来のことですが、主が来られるという約束は現実です。主ご自身がこう言われたからです。「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言うておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意していくのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。」

(ヨハネ14:1-3)

これらの貴重な啓示に基づいて、キリスト教徒は現在の贖いの保証の中で生きるだけでなく、栄光の王国における最終的な贖いの希望の中で生きるのです。

栄化は臣民を栄光の王国に住むことができるようにする

栄化とは、人間を変えて、罪の結果から解放し、不滅にする神の仕上げです。コリント人への第一の手紙15:51節と52節が宣言していることを考えてみましょう。「ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる。というのはラッパが響いて、死人は朽ちない者によみがえらされ、わたしたちは変えられるのである。」

キリストを信じる者の現在の体は、死すべきものであり、劣化し、もろいため、天の命には適していません。信者は人生において聖霊の豊かさを享受しますが、その体には依然として死の痕跡が残っています。その

ため、キリストの再臨のときに鳴る最後のラッパの音で、キリストは信者に新しい体を与えてくださるのです。

この新しい体は、不滅で、栄光に満ち、罪から解放され、不死であり、永遠の命のために準備ができています。キリスト教徒の生来の体は、神の栄光に耐えることができ、昇天の準備が整った霊的な体に変えられます。

神は、復活した聖徒たちと死を経験しなかった忠実な人々の両方に、この変化を与える神聖な仕上げを行います。

『各時代の争闘』という本は、この考えを美しく表現しています。

「キリストは、わたしたちの卑しい体を作り変えて、ご自身の栄光の体に似たものとしてくださる。一度罪に汚されてしまって美を失い、死ぬべき、朽ち果てるべきものとなった体が、完全な、美しい、不死のものとなる。」³

すべてが完全になる！この変化は人体の構造に影響を与えますが、各個人の特徴は保持され、贖われた人たちはお互いを認識できます。

「わたしたちの個人的な特徴は復活において保存される。罪の呪いの最後の痕跡は取り除かれ、キリストの忠実な者たちは『わたしたちの主なる神のうるわしさ』のうちに現れ、心と魂と体が主の完全なかたちを反映する。」⁴

栄光の王国の特徴

栄光の王国について語るとき、わたしたちは神のパラダイス、新地、そして新天について考えます。しかし、人間の言語は天国の栄光を表現するには不十分であることを認めることが重要です。すべての言語は、神のパラダイスを適切に描写するには不十分です。各時代の争闘下巻463ではこの点が強調されています。

「人間の言葉では、義人の受ける報いを十分に描写することはできない。それは見るものだけがわかるであろう。限りある人知では、神のパラダイスの栄光を理

解することができない。」各時代の争闘下巻463
人間の言語の限界にもかかわらず、わたしたちは預言者の言葉から靈感を引き出し、わたしたちの想像力が神聖なパラダイスへ向かってわたしたちを案内することができます。黙示録の中の啓示で、使徒ヨハネは神の永遠の御国の天来の栄光の一筋をとらえる祝福にあずかりました。彼は黙示録21:1-5の説明の中で次のように述べています。

「わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなりました。また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、『見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいとってくださる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のものが、すでに過ぎ去ったからである』。すると御座にいます方が言われた、『見よ、わたしはすべてのものを新たに作る』。また言われた『書きしるせ。これらの言葉は、信ずべきであり、まことである』。」

ヨハネの預言的な描写に基づいて、わたしたちは栄光の王国のいくつかの特徴を浮き彫りにすることができます。

新しくされた地と天のエルサレム

「新地」という表現は、新しい創造を意味します。罪が深く影響した惑星は破壊され、神の裁きの炎によって焼き尽くされます。サタンとその天使、そしてすべての邪悪な者は完全に滅ぼされます。マラキ書4章1節が次のように語っています：

マラキ4:1「万軍の主は言われる、見よ、炉のように燃える日がある。その時すべて高ぶる者と悪を行う者とは、わらのようになる。その来る日は、彼らを焼き尽くして、根も枝も残さない。」

罪の扇動者（サタン）の滅亡と惑星の清めにより、エデンの栄光が回復されます。被造物は創造主と調

和し、新エルサレムが新たな地球の首都となります。

新エルサレムの栄光

新しいエルサレムの描写は、その美しさと壮麗さでわたしたちに感銘を与えます。それは神の栄光で輝き、宝石のように、へき玉のように、水晶のような輝きを放ちます。（黙示録 21:10、11参照）

人類の中の神の幕屋

主はご自分の民と共におられます。神は、ご自分が贖われた人々、つまり今や永遠の神の子たちと共に住むことを選ばれます。彼らは永遠に神の尊い臨在とこのお方の光を享受するのです。彼らを贖われたキリストは彼らの傍らに立たれます。救われた人々は永遠にわたって神と顔を合わせて礼拝する特権を持つようになります。神の幕屋が彼らの中にあり、エホバと贖われた人々の間に親密で愛に満ちた関係が築かれます。「神の民は天父とみ子とに自由に交わる特権がある。『わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている』（コリント第一13:12）。われわれは神のみ姿が、自然界のみ業と人間に対する神の取り扱いとに反映しているのを、ちょうど鏡の中に見るように見ている。』⁵

もう悲しみも涙もない

パトモスの預言者ヨハネは、神のパラダイスにおける永遠の喜びと幸福の状況を次のように描写しました。「人の目から涙を全くぬぐいとって下さる。」（黙示録 21:4）

新地、すなわち栄光の王国は救われた者たちの永遠の故郷となり、悲しみや涙の原因となるすべての理由が過去のものとなるため、そこにはもう涙はありません。「主にあがなわれた者は帰ってきて、その頭に、とこしえの喜びをいただき、歌うたいつつ、シオンに来る。彼らは楽しみと喜びとを得、悲しみと嘆きとは逃げ去る。」（イザヤ35:10）

もう病気はない

新地では、もはや病気はありません。病院も医者も治療も必要ありません。罪の結果はすべて取り除かれ、「わたしは病気だ！」という人はだれもいないのです。

「そこに住む者のうちには、『わたしは病気だ』と言う者はなく、そこに住む民はその罪がゆるされる。」（イザヤ 33:24）

「その時、見えない人の目は開かれ、聞えない人の耳は聞えるようになる。その時、足の不自由な人は、しかのように飛び走り、口のきけない人の舌は喜びを歌う。それは荒野に水がわきいで、さばくに川が流れるからである。」（イザヤ 35:5, 6）

死や葬列はもうない

地上の生活では、死は多くの幸せな物語に終止符を打ちます。新地では、死も葬列も墓もありません。

「主はとこしえに死を滅ぼし、主なる神はすべての顔から涙をぬぐい、その民のはずかしめを全地の上から除かれる。これは主の語られたことである。」（イザヤ 25:8）。

そして死を経て復活した者は、「死は勝利にのまれてしまった」と宣言します（コリント第一 15:55）。

栄光の王国での成長

新地では、救われた者たちは神の愛の素晴らしさを探求し、神の創造力についてさらにもっと理解を深めるためにたゆまぬ研究を続けます。「そこでは、不死の者たちが、創造力の驚異、贖いの愛の奥義を、永遠に尽きない喜びをもって研究する。人を誘惑して神を忘れさせるような、残酷で欺瞞的な敵はもういない。すべての才能が発達し、すべての能力が増大する。知識を獲得するのに、頭脳を疲れさせたり、精力を使いきってしまったりするようなことはない。そこではどんな大きな企画も実行され、どんな遠大な抱負も

達成され、どんな大望も実現される。そしてそれでもなお、越えるべき新しい高いところ、感嘆すべき新しい驚異、理解すべき新しい真理、頭と心と体の能力を呼び起こす新たな対象が現われてくる。

宇宙のすべての宝は、贖われた神の民が研究するために開放される。死ぬべき人間という拘束をうけないで、彼らは、はるかに遠い他世界 — 人間の悲惨な光景を見て悲しみに身を震わせ、一人の魂が救われた知らせに歓喜の歌をひびかせた他世界 — へ、疲れも覚えず飛行する。言葉では言い尽くすことのできない喜びをもって、地上の子らは、他世界の住民たちの喜びと知恵にあずかる。世々にわたって神のみ手の業を熟視して得られた知識と悟りの宝に、彼らは共にあずかる。くもりのない目をもって、彼らは創造の栄光を見つめる。すなわち、もろもろの太陽や星や天体が、おのおのその定められた軌道を通して、神のみ座の周囲を運行しているのを見るのである。最も小さなものから最も大きなものに至るまで、すべてのものの上に、創造主のみ名が書きしるされ、すべてのものの中に神の力の富が示されている。

永遠の年月が経過するにつれて、神とキリストについてますます豊かですますます輝かしい啓示がもたらされる。知識が進歩していくように、愛と尊敬と幸福も増していく。人々は神について学べば学ぶほど、ますます神のご品性に感嘆するようになる。イエスが彼らの前に、贖いの富と、サタンとの大争闘における驚くべき功績とをお示しになると、贖われた者たちの心はいっそう熱烈な献身の念に燃え立ち、いよいよ喜びに満たされて黄金の立琴をかき鳴らし、万の幾万倍、千の幾千倍の声が一つになり、賛美の一大コーラスとなって盛りあがる。」⁶

栄光の王国では、誘惑者も悪の危険もないので、罪の復活が成長を脅かすことは決してありません。また、

善悪を知る木も誘惑の機会を与えません。宇宙はサタンの反逆を目撃し、その結果を見ました。神の正義が確立され、神の広大な統治がみな次のように宣言します。「万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります。」（黙示録15:3）

確かに、善と悪の戦いの記憶が一つだけが残るでしょう。地上の苦しみ、痛み、誘惑は終わったものの、神の民はいつまでも自分たちの救いの代価について、はっきりとした知的な理解をもっています。キリストはなおもその体に贖いのしるしを帯びるのです。尽きることのない永遠の世紀を通じて、これらのしるしは神の計り知れない愛と、わたしたちを救うためにイエスが払われた計り知れない犠牲を証言するのです。

「諸世界の創造者、すべての運命の決定者が、人類に対する愛から、ご自分の栄光を捨てて、ご自分を卑しくされたことは、いつまでも宇宙の驚嘆と称賛的となる。救われた諸国民が、贖い主を見て、そのみ顔に天父の永遠の栄光が輝いているのをながめるとき、また、永遠から永遠にいたるイエスのみ座をながめ、イエスのみ国には終わりが無いことを知るとき、彼らはどっと歓喜の歌声をあげて、『ほふられた小羊、ご自身の尊い血によって、わたしたちを神に贖って下さったおかたは、賛美を受けるにふさわしい、賛美を受けるにふさわしい』と叫ぶのである。』⁷

結論

栄光の王国とその比類のない驚異を探索した後、深い質問が生じます。この王国の喜びを楽しむ特権を得るのはだれだろうか？ その相続人はだれだろうか？ 神の啓示の光の中で、わたしたちは答えを見つけます。恵みの王国を受け入れ、その中で生きる人々が、栄光の王国の臣民となるのです。彼らは、この世、肉、そして悪魔の逆境を克服する人々です。「勝利を

得る者は、これらのものを受け継ぐであろう。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。」（黙示録21:7）

彼らは、イエス・キリスト、すなわち救い主であり、自分の命の主であられるお方と個人的な交わりをもっています。彼らは、救いの日にこのお方の恵みによって変えられました。

親愛なる兄弟、友人の皆さん、わたしたちはこの世界の歴史の最後の時に生きています。間もなく、もうすぐに、わたしたちは栄光の王国の到来を目撃し、その永遠の喜びを楽しむ特権を得るでしょう。ですから、わたしたちは「現在の機会を最大限に活用しなければならない。天国に備えるためにわたしたちに与えられる恩恵期間は他にない。これは、主がご自分の戒めに従うすべての人のために用意しておられる将来の家にわたしたちをふさわしいものとする品性を形成する唯一にして最後の機会である。』⁸

わたしの心からの願いは、わたしたちが勝利者として共に立つことです。わたしたちは救いを失う危険を冒すことはできません。神がわたしたちを助け、祝福し、あなたとわたしが天国のパラダイスに栄光の王国にあずかることができるようにしてくださいますように。アーメン！

引用：

1. 各時代の希望上巻286
2. 各時代の希望上巻289
3. 各時代の争闘下巻424
4. 信仰によってわたしは生きる185
5. 各時代の争闘下巻465
6. 同上466, 467
7. 同上434
8. 終わりの時代の出来事236, 237

広めるべきメッセージ

バーバラ・モンテローザ著

欺きの世で、どれくらいの人が聞いたことだろう
若いころからの神の福音を
それは今日のために聖書に
非常にはっきり記されている
そのメッセージは今のために何より命にかかわる—
現代の真理だ！

遠く広く丘や谷を越えて、教えられたとき
心の中にはあまり旋律が鳴り響く
長く闇のうちにいた魂が希望のうちに目覚める
主からまっすぐにくるこのメッセージを見極める

召しはわたしたちの魂のうちに深く、
一人ひとりにやってくる
今こそ、わたしたちは悔い改めるべき時だ
罪と悪への誘惑を捨て去るために
そして恵み深くも遣わされた救い主へ信頼するために

わたしたちのためにとりなしておられるキリストを眺めて
すべての人が熱烈に切望すべきお方を
このお方の犠牲は、その血を通して力を発散する
としえの岩：変化の影はない

この世はまもなく終わる、悲しみをもって血を流す
すべての人は痛々しくそこに不完全な何かをみとめる
じっくりと考えるとき、信仰によってわたしたちはいかに
切望することだろう
イエスとの交わり、そして天の祝福！

嵐と飢きが蔓延する今ただなかで
病気と戦争がこのような悲しみと痛みを伴うときに

イエスに明け渡して、わたしたちの希望はなお
繁茂しなければならない
神の後の雨を通して断固として行動しよう

この真理は理論ではない。それは霊であり、命である
力を伴う、蓄えられた心に実を結ぶ
すべてのことが語られ、なされるとき、
わたしたちの救い主は来られる
各自にこのお方は特別な報いを持ってこられる

心にいだく真理が笑われ、あざけられるとき、
あざける者や嘲笑する者はいまメッセージをはねつける
しかし、彼らが見張っていないときに、
恩恵期間は閉じる
そしてイエス、王が栄光のうちに戻られる！

同様に、今こそわたしたちが自分の罪を悔い改める
チャンスである
今こそ野に出て行って伝えるチャンスである
収穫は色づき、魂は刈り取りのために
準備ができている
働きは印されたわずかな者によって
成し遂げられなければならない

イエスをながめ、このお方につながりつつ
わたしたちはあらゆる墮落と紛争に超越し、
このお方の力のうちにある恵みによって、
このお方のぶどう畑へ出て行く
このお方の御名を信じ、
このお方の命を生きる信仰を通して！